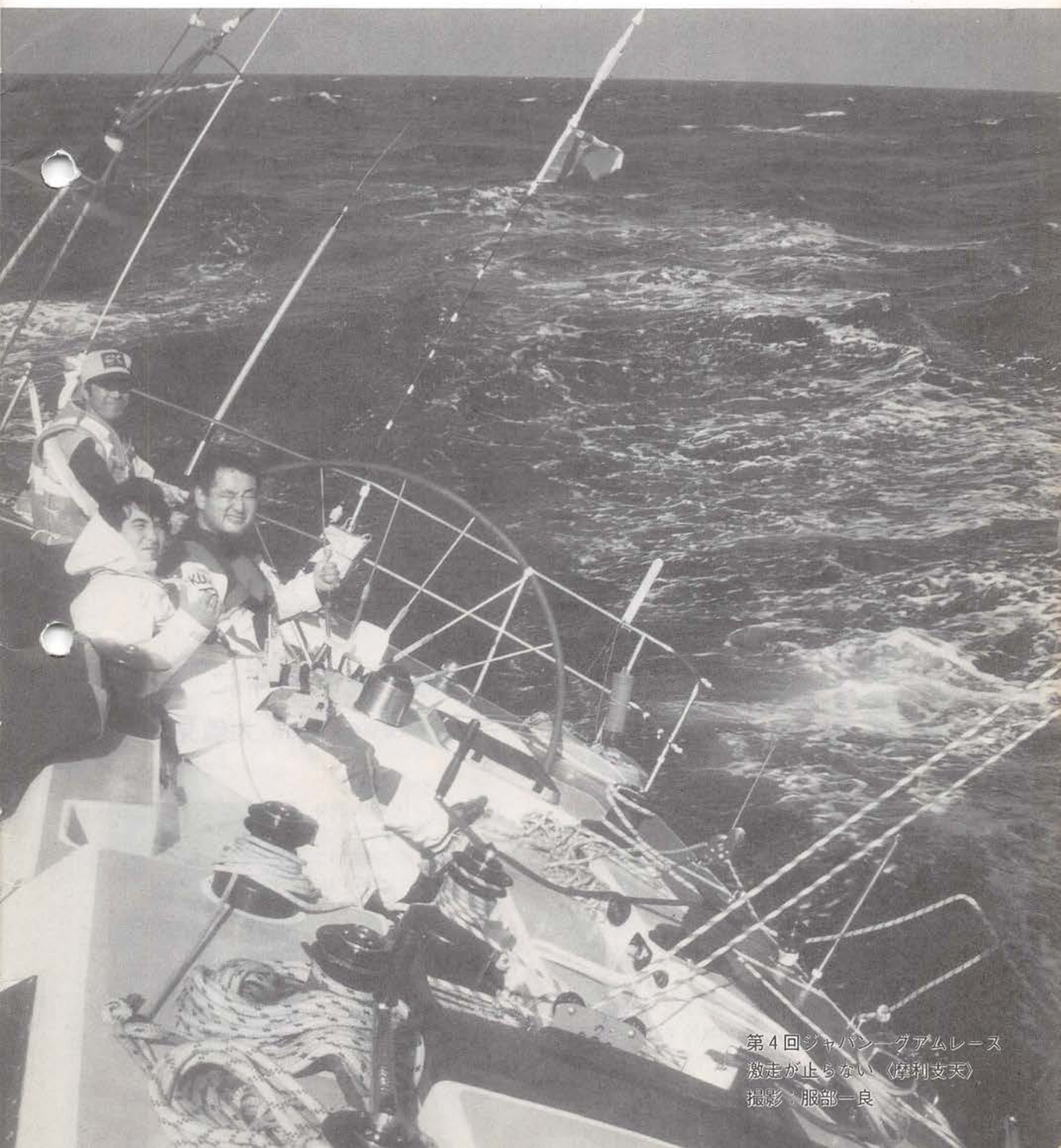


Offshore 1

1988

社団法人 日本外洋帆走協会発行 No. 154/300円

昭和63年1月15日発行(毎月1回15日発行) 昭和52年7月21日第三種郵便物認可



第4回ジャパングアムレース
激走が止らない《摩利支天》
撮影：服部一良

1988 謹賀新年

年頭のご挨拶

運輸大臣 NORC理事 石原慎太郎

NORC 会員の皆様、明けましておめでとうございます。

新年を迎え1988年が昨年にもまして、皆様をはじめわが国のヨット界にとって良い年であるようお祈りいたします。

昨年のヨット界の活動をふりかえてみますと、国際的レースでは、3月メルボルンをスタートしたメルボルン—大阪ダブルハンドレースは、スタートが7カ国64艇の多数を数え、NORC 大儀見副会長の〈波切大王〉がファーストフィニッシュし、全国的に熟年パワーのブームをまきおこしました。11月に葉山沖で行われたニッポンカップマッチレースは、わが国初のマッチレースで、外国6チームの強豪に伍してわが国の2チームが健闘はしましたが、結果は7位、8位に終わりました。クルー一体となったセールワークを一段と練磨し、世界の一流に対抗できる技術を身につける必要性を痛感しました。国内では、鳥羽パールレース、ジャパンカップ等成功裡に終了したことは喜びにたえません。

昨年11月、竹下内閣の発足に際し、私は運輸大臣として入閣いたしました。諸般の状況を勘案し、私は



NORC 会長を辞退することとし、第103回理事会において、大儀見副会長が、会長代行として会長の職務を執ることになりました。私は、今後運輸大臣として所掌する行政のなかで、ヨットを含めた海上レジャーの振興について、できる限りのことを施策に反映させてゆきたいと思っております。

本年も、私は時間の許す限りレースには出場したいと思っています。会員の皆様も、レースにクルージングにセーリングをエンジョイし、風と波に心身を癒してもらおうではありませんか。

皆様のご健康をお祈りいたします。

1988を飛竜の年に

日本外洋帆走協会会長代行 大儀見薫

昨年はヨットが大衆スポーツとして日本で一人前に成熟するための基本的な条件が整備された画期的な年だったのではなかろうか。

日本でもヨットはとっくに大衆化しているではないか、という見方は勿論あるだろうし、ここ数年間での



ヨットの普及、特にウィンド・サーフィング等の若者たちの間での爆発的な伸びはそれを裏付けてもいる。しかし、どのスポーツであれ、それが大衆スポーツとして成熟するためには、「大衆」が参加することも勿論だが、MASSとしての大衆が、そのスポーツを自分自身がやる、やらないは別として、身近かに感じる、共鳴、共感できるものをそのスポーツに感じる、そしてマスコミがまさにマスを対象とした角度からそのスポーツを広く取り上げて注目するようになる、といったことが前提条件だろう。

日本のヨットも、外洋ヨットを含めて、年々愛好者が増え、ポピュラーになってきたことは事実であるけれども、一人前の大衆スポーツとして認知されるには今一つ問題があったといえる。マスコミが、ヨットを一般のスポーツの枠の中で取り上げる場合は少なく、外洋ヨットの場合は特に、社会面で「事件」として登場する場合の方が多かった。どうしても、特殊な一部の人がやっている特別な世界…金持ちの遊び、もしくはトテツもない命知らずの冒険野郎たちの、特種な、特異な世界…というイメージからなかなか脱却できないでいたといえる。

昨年は、この状況を大きく変えるうえで、画期的な年だった。まず第一に、アメリカズ・カップに日本で初めて、それも二つのシンジケートが手を上げたことは、従来になく広い範囲で国民一般にヨットの魅力とパワーをアピールした。アメリカズ・カップというのは、それこそヨットの世界では特異なイベントではあったけれども、NHKの番組で継続的にフリーマン・トルでの1986～1987年のシリーズが取り上げられたということは、ヨットの大衆的理解を促し、関心を高めるうえで非常にインパクトがあった。アメリカズ・カップは、ここ2回におけるドラマチックなオーストラリアの逆転とデニス・コナーのそれこそ劇的な「カムバック」を通じて、オリンピックとサッカーのワールド・カップと並んで、グローバルにマスコミを大きく動員できる三大イベントとして、世界の桀舞台に躍り出て来た。日本でも10億単位の資金が、スポンサー各位の理解を得て、結集できるようになった。数年前までは、夢だったことが、一挙に現実となった状況の変化は、まさに画期的なことだ。

逗子湾の沖で秋に行なわれた、ニッポン・カップ・マッチレースは、NORCをチャレンジ・クラブとする日本チャレンジ・シンジケートのアメリカズ・カップ・キャンペーンの一部として、NORCの熱心な会員でもある、NHKの木村さんを中心に企画されたが、葉山ヨットクラブの関係各位の大変な努力もあって、素晴らしい成果を上げることができた。

レース自体の運営が国際的にも高い評価を得たわけだが、これもNHKがその番組で全面的にフォローし、また、大谷さん、斉藤さんといった生え抜きのヨットマンによる適切な解説を得たこと、そして何よりも一

対一のマッチレースの持つ迫力と解り易さ、そして世界トップレベルの選手たちのスター性等は、今までまったくヨットに関心も理解も示さなかった非常に広い層の人びとに、強力なインパクトを与えた。

これは、面白いスポーツとして、マッチ・レースを「視た」大衆ばかりでなく、広告代理店、各種メディア、そして企業サイドにもヨット・レースを事業として、ソロバン勘定の対象として認知するうえで、大きな効果を発揮したことは間違いない。

ヨット一般が、そして特に外洋ヨットが広く認知されるうえで、もう一つ非常に大きな役割を果たしたのが、春さきに敢行された、メルボルン—大阪・ダブルハンド・ヨット・レースだったことは万人が認めることだろう。5,500マイルの太平洋縦断コースに7カ国64隻の、大変ユニークで面白い顔振れの参加者がチャレンジして展開された壮大なドラマは、改めて外洋ヨットの持つ素晴らしいそのロマンとスケールの大きい冒険の魅力を強く印象づけた。

〈キャストウェイ・フィジー〉号のキール脱落による、極めて残念な事故は、クルーのコーリン・アクハースト氏の死亡という悲劇的結末となったが、このレース全体が、今までの外洋ヨットに対する大衆一般の考え方、受け止め方に大きな変化をもたらしたことは否定できない。

この「イベント」も、アメリカズ・カップ及びニッポン・カップ・マッチ・レースとは別の意味で、マス媒体が広くこれを取り上げたことによって、外洋ヨットを大衆化するうえで、外洋ヨットを広い層の一般大衆に理解してもらい、かつ身近かなものとして、共感、共鳴できるものとして感じてもらううえで大きな効果があった。

この他にも、熱海のジャパン・カップが、日本のIOR艇による、トップレベルのシリーズ・レースとして完全に定着してきたこととか、ジャパングラム・レースも、ようやく二ヶタの参加艇を得て、これも軌道に乗ったこととか、1987年は特筆すべき年だったといえる。

冒頭に指摘したような、日本におけるヨットが大衆スポーツとして広く一般に認知されるようになったことは、日本のヨットの歴史の中で一つの転機となるだろうことは間違いない。

一方、グローバルな、世界のヨット界の動きを見ても、非常に大きな、スポーツとしてのヨットの性格そのものに大きな影響を与えるような問題が、いくつか表面化してきている。

我々NORCにとって、直接かわりあいのあるところでは、ORCが、本格的にIORとIMSの二本立て態勢に入ったこと。二本立てというよりも、むしろF-1的な少数精鋭のIORとは別に、外洋ヨットの最大多数を占める、クルーザー／レーサー、ORCのいう、ダブルパーパスヨット（レースとクルージング

の両方を目的とした、一般オーナー・スキッパーが指向するタイプ)をいかに抱え込むかということに全力を傾けるという基本方針が、ここ2~3年の間の準備、助走の期間を経て、完全に確立されたことは、我々にとっても、他人ごとではない。改めてその重要性が強調されなければならない。

本年秋のIYRU大会では、いよいよレースをプロとアマとに分ける。そしてプロ・レースの出場者はプロとして登録され、アマ・レースには出場できなくなるといったルール改正案が採用されそうな状況となっている。ヨット界の従来のあり方を根底からひっくり返しかねないようなことが、もはや目前にひかえているのだ。

このことは、ヨット・レースの商業化つまり、ロス・オリンピック以来の全スポーツ種目にわたる、コマースリズムの大きな波が、ついにヨットにも波及したということなのだが、これと表裏一体となっているのがIYRR 26条による広告表示の制限の緩和である。この制限が、有名無実化している現状の追認という性格が強い問題であるが、これも、我々が従来やって来たレースのあり方に重大な影響を与えるものとならざるを得ない。

因みに、ORCでは全体としての、ヨットそのものの広告塔化の流れに対して、IYRRの改正はそれとして容認する方向を打ち出す一方、これをIORレースにのみ限定するという、限定適用の線引きを強く打ち出している。

これもまた、我々が通常行っている各種レースにとって大きな意味あいを持っていることは、はっきりしている。つまり、クルーザー／レーサー等のIOR艇によらないレースでは、むしろ広告規制は従来より明確な形で強化されるということであるからだ。

IOR艇のF-1化のもう一つの極めて残念な副産物は、ルールチーティングの問題である。昨年のONE-TON CUPならびに、世界外洋レースの原点でもある、ADMIRAL'S CUPで表面化した、意図的かつ計画的な、極めて悪質なルール違反(海水をインサイドバラストとして積極的に活用した)事件は、関係者の外洋レース出場停止という、前代未聞の結末を見た。しかも、このケースは文字通り、「冰山の一角である」とされている事実は、一部外洋ヨット・レースが、いかに変質し、健全なスポーツとは程遠い状況になっているかを明白に示している。

このように見てくると、世界のヨット界は大きな曲り角にきていると言わざるを得ない。どのスポーツ種目も、貴族・富豪の遊びから、産業社会の発展とともに、ルールをベースにして、万人が参加できる、近代スポーツとして進化し、これがそれぞれのスポーツの大衆化と普及に大きく貢献してきた。しかし、スポーツの頂点に立つオリンピックの明らかな商業化とプロ化は、アマチュアスポーツと営利目的のベンチャー

事業との境界をあいまいにした。そして、一般大衆が自主的に運営参加するタイプの競技と、プロ化し、かつスポンサーの金を当然の前提とするタイプの競技とに二極分化することを急速に促した。ヨットも例外ではなく、IOR艇のF-1化問題、広告表示の規制をめぐる混乱、プロとアマの区別とプロの登録問題、そしてルールチーティングの顕在化などは、いずれもこの基本的なスポーツとしてのヨット競技の性格の変動にともなう、同根の現象であることは、はっきりしている。

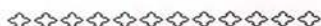
ヨットの大衆スポーツとしての成熟は、素晴らしいことである。マスコミからも、まともに取り上げてもらえる。一般国民もヨットを、他のスポーツ同様、理解と共感をもって見てくれる。こんな結構なことはない。しかし、このことは、ヨットが日本の社会、文化、そして経済の中に、それらとのかかわり合いの中で存在するようになってきたことを意味する。「ヨットマンによる、ヨットマンの、ヨットマンのための」自前の活動を30年以上、積み上げてきたNORCは、日本のスポーツ界ではあまり見られない、素晴らしい自主的な伝統を築いてきた。

しかし、今、我々を取りまく状況は大きく変わりつつある。我々身内だけの内向きの活動では、こういった大きな状況の変化に充分対応できなくなっていると言えるだろう。本格的な大衆スポーツとしての成熟は、外洋ヨットの多様化をもたらした。しかし、これは同時に、社会的、経済的な周囲の環境とのかかわり合いの比重が、従来になく大きくなったことを意味する。

NORCがそれを望むか、望まないかにかかわらず、世界の外洋ヨットそのものが大きな転換点に立っている。商業化の波も避けることはできない。スポーツの生命はルールとフェア・プレイの精神であることは当然のことだ。しかし、この精神を維持することはますます難しくなっている。ルールを曲げる圧力も強まるだろうこともはっきりしている。

今、世界の、日本の外洋ヨットは大きな転換期を迎えている。その荒波を乗り越えて行くための強力な舵取りと、指導性が今ほど重要になったことはないのではないだろうか。石原会長の運輸大臣就任は素晴らしいできごとだ。NORCがその社会的責任を全うすることが、今程重要だったことはない。そういった大変な時期の大臣就任である。是非とも、大所高所からの指導、力添えを載きたいものである。

同時に、我々自身が国際的、社会的な状況の変化に対応できる自前の力を付けることが、日本の外洋ヨットマンの期待に応えるための必要条件である。



新しい年を迎えて

日本外洋帆走協会副会長 秋田博正

新年おめでとうございます。

わが国ヨット界は年々多彩の度を加えておりますが、本年もアメリカズカップへの挑戦の準備等、一つの時期を画する飛躍が期待されております。

長年の夢でありましたアメリカズカップへ日本よりの参加が関係の方々の並々ならぬ努力と各方面の深い理解で日本オーシャンレーシングクラブとベンガルベイ・ヨットクラブからの2艇が参加することになりましたことは頼もしくも嬉しいことです。ヨットを取りまく総合力の闘いです。ヨットマン一同心から声援したいものです。

ハワイでのケンウッドカップも7月末から開催されます。この伝統あるビッグレースを日本のケンウッド社がスポンサーになってからの第2回目ですが、パンナム時代からわが国ヨット界とは関係の深いレースです。成功を祈りますと共に日本よりの参加艇の健闘を期待しております。



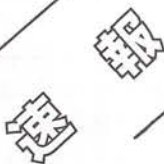
インターナショナルといえば神戸市の須磨ヨットクラブと姉妹クラブ関係を結んでいるシアトル市の100年の歴史を誇る名門シアトルヨットクラブから5月に60余名のメンバーならびに家族が第4回目の宝船レガッタへの参加と友好親善を兼ねて須磨ヨットクラブにやって参ります。2年毎にシアトル市と神戸市で交互に開催されているものですが、両クラブの間には素晴らしい友情が実っていて本当に理想的なクラブ間の交流です。益々の発展をお祈りいたします。

一面、国内各地でのヨットハーバーの建設熱もまことに高いものですが、中心にマリナーを据えての大きな埋立が西宮市沖と芦屋市沖に隣接して同時に着工されますが、日本屈指のヨットハーバーになるものと考えられます。楽しみであります。ぜひ潮の香も高いシーマンライフに根づいたものになるようにと願っております。

このようにわがヨット界を取りまく諸情勢は力強い勢いで新しい動きが押し寄せて参っております。今こそこれを受けとめ、日本のヨットをステディに而も高く飛躍させる絶好の機会であります。その指導的立場にある日本外洋帆走協会の役割と責任は誠に重大でありますし、またやり甲斐のある時であります。ぜひ全会員の皆様と共に力をあわせ、フレッシュに力強く対応を進めて行きたいと思っております。

本年も皆様のご多幸なかつ前進に満ちたセーリングの年であるようにお祈りしております。

第4回 JAPAN-GUAM RACE



〈摩利支天〉V3を達成!

JAPAN-GUAM RACE結果

公式距離 1330マイル

着順	艇名	Sail NO.	TYPE	到着日時	所要時間	所要秒数	標準時間	修整時間	順位
1	摩利支天	3420	M & M 56	㍻ 22:53'41"	6日10時間53分41秒	557621秒	488×1,330	-91419秒	1
2	風見鶴	3339	TAKAI 43	㍻ 16:46'33"	7日04時間46分33秒	621993秒	529×1,330	-81577秒	2
3	PALMAX	3738	横山 46	㍻ 22:42'55"	7日10時間42分55秒	643375秒	518×1,330	-45565秒	3
4	LUCKY LADY	3210	TAKAI 46	㍻ 9:23'09"	7日21時間23分09秒	681789秒	521×1,330	-11141秒	4
5	ヒカリ	2777	スワン 39	㍻ 23:48'44"	8日11時間48分44秒	733724秒	548×1,330	+4884秒	5
6	ボランス III	1403	ベネトン 12	㍻ 3:55'41"	8日15時間55分41秒	748541秒	537×1,330	+34331秒	6
7	シーフィーバー	3161	ケッチ 40	㍻ 11:57'59"	9日23時間57分59秒	863879秒	574×1,330	+100459秒	8
8	ダーマ II	3658	アンデスタッド30	㍻ 23:16'53"	10日11時間16分53秒	904613秒	622×1,330	+77353秒	7
DSQ	DUGONG II			㍻ 22:21'29"	エンジン使用のため失格				DSQ
リタイア	QUICK SILVER			ラゲートラブル ㍻ GUAM入港予定					リタイア

ニッポンカップ・レポート

ワールド・マッチ・レース・コンファレンス (WMRC) の HM Lane 議長から、先きのニッポン・カップ マッチ・レースの報告書が送られてきました。

NORC が WMRC から今回のマッチ・レースの運営を委託されたわけですが、今回ともう一回本会のレースの運営をやらせて見て、合格点が与えられれば、正式加盟が認められるということで決定がなされていました。

各種の問題点の指摘はありますが、全体としては、大変高い点数をつけてもらえたようです。直接本レースの運営に当たった、NHKの木村太郎さんはじめ、葉山マリーナヨットクラブの実行委員の皆さん、ならびに関係各位の大変な努力のたまものです。この分だと、どうやら2年目の「テスト」をまたずに、WMRC への正式加盟が認められそうです。

以下、レーン議長のレポートの和訳です。

このイベントは、非常にすばらしいものであったというのが関係者全員の意見である。比較的些細な問題はあったが、うまく組織され、運営されていた。

ワールド・マッチレース・コンファレンス (WMRC) のメンバーの半数以上が出席した。すなわち木村太郎 (NORC)、Eric Ogden (SAO)、Hal Lane (LBYC)、Graeme Owens (RPYC)、それに表彰式の時に、うっかり紹介するのを忘れた Gary Jobson (HFF) の各氏である。Gary の場合、彼のセーリングがあまりに印象的だったので、つい、委員であることを忘れてしまっており、失礼してしまった。

1. レース結果

- | | | |
|-------------|-----------|-------------|
| (1) Gilmore | (2) Owen | (3) Dickson |
| (4) Tsler | (5) Bouet | (6) Jobson |
| (7) 小松 | (8) 戸谷 | |

2. レースコンディション

雨の一日を除けば、寒くはあったが晴天であった。北東の風は、12~15ノットを大体維持していたが、最悪の状態の時には、45~50ノットの突風を伴った30ノットの風であった (メインをリーフした)。波は比較的穏やかであった。

3. 海上運営

些細な問題を除き、田中氏 (PRO) と彼のレース委員 (スタート艇には、14人乗船していた) が、すべてうまく処理していた。スタートラインは、このスタート艇 (45フィート・セール) とブイを結ぶ線であった。

風上と風下マーク付近のコミッティー艇は識別のための SHAPE を掲げていなかった。また、コミッティー艇がかなり大きかったのでレース艇の方向からマークを発見しにくいことがあった。ウィンド・シフトは、それほど、頻繁にはなかったが、もう少

し注意して、シフトに従ってコースを修正したほうがよかった。レース第一日目では、風上のコースが短かったため、スタート時に、リードした艇を追い越すことは、實際上、不可能であった。この事は、次の日から改善された。

ラウンドロビンが終った段階で、トップはDicksonで、Gilmoreは6位であった。Owen, Jobson, Bouetの各チームは、同点であったため、ジュリーの抽選によって順位が決められた。Garyは、4勝0敗でレースを終了したが、プロテストのため、2敗となった。

30フィートの艇は好ましくないというのが、大方の意見である。我々の基準である35〜40フィートの艇がやはり適切なサイズである。私の知る限りでは、艇は、レース期間中インスペクト(検査)されなかった。

4. ジュリー(審判員)

国際審判員は、委員長が大儀見薫で、その他は石井正行、Cy Gillette, Graeme Owens, Bertrand de Spevilleであった。他のレースの場合のように、審判員の名前はプログラムにも掲載されていないし、他の所にも表示されていなかった。最初のジュリーボートは、海上のヒヤリングには適当でなかったもので、二日目から代えられた。9メートル以上のヨットは、税金が高いため、大型のモーターヨットは、多くなかった。プロテストも、それほど多くなく、それらは、公正に検討された。

5. 設備

葉山マリーナ・ヨットクラブは相模湾岸にあるきれいなクラブである。船はほとんどが陸置きで、クレーン車は10トン、20トン、それに昼間だけセーリングする小型艇のためのクレーンの三台が常備されている。競技用艇は30余りのバースに係留されていた。ヨットクラブは、マリーナプラザ内にあり、プラザには各種店舗、レストラン(そのうちの軒は5つ星クラス)、レースコースを一眺できる展望室などがある。この展望室から4回のスタート、マークを回るレース、及びフィニッシュを観ることができた。最後の二日間のレースは、テレビで生中継されたが、この展望室でのコミュニケーションはあまり良くなかった。結果やプロテスト等に関する情報を貼り出したほうが、通信コミュニケーションより、効果があったと思われる。

各ヨットは、スキッパーの名前の最初の二文字を長さ4フィートの大きさで、メインに付けたが、これは各艇を見分けるのに便利であった。背景に富士山が見え、すばらしかった!

スキッパー、クルー、ジュリー、プレス、ゲスト全員に鎌倉のデラックス・ホテルが組織委員により提供され、そこからレース会場までバスで20分で行けた。

歓迎パーティと表彰式の日以外は、毎朝食と夕食が無料で提供された。さらに、ゲストにはVIP用の艇と、弁当が用意された。小田切会長御夫妻主催によるパーティが、スキッパー(クルー)、ジュリー、VIPを招待して、彼の家で行われた。委員会メンバーは、このレース期間中、丁重にもてなされ、山田氏を中心とする人達の接待はすべての点で、すばらしいものだった。各委員長の御夫人達は、海に出ない人達のためにツアーを計画し、乗り物の手配や数多くの質問に手際良く答えるなどしてくれた。

英語の出来るホステスが各クルーに付き、言葉による不便を取り除いてくれ、大いに助かった。しかし日本人の英語をしゃべる能力のほうが、日本を訪れる外国人の日本語の能力より、ずっと優れている。渉外担当者と通訳は、将来も我々が良く検討すべき事項である。

6. 委員会事項

WMRCに対する認識と支持は、すばらしいもので、勝者に対する証書の授与とWMRCについてのスピーチが表彰式で行われたことがそれをよく物語っている。

スキッパーから出されたマッチレースを通してのヨットの普及と、WMRCとの密接な協力関係が彼らの目的であることを、公に発表したいという依頼は、興味深いものであった。

Grundig及びAustralia Cupの時のようにスキッパーは、彼等独自のミーティングを開き、私もそのうちの一つに招待された。その主なテーマはワールド・カップとの衝突を避けるための努力とスポンサーであった。Communicon社とEric(プロテストの場合にはGraeme)が参加し、他の人も全員、ディスカッションには満足していたようだ。スキッパー・ミーティングでは、1)クルーと一体となって共同体を形成する。2)マッチレース・レガッタを標準化するため帆船指示書、レース艇(35フィート以上)、クルー(5人が理想)に関する提案を検討する。3)スキッパーのためのシード・システムを採用することの三点に関して同意が得られた。

NORCは、すばらしいシリーズを実施した。このシリーズがNORCにとってはじめてのものだったとは、到底信じられない。

トロフィーはユニークで美しい物である——波が砕ける様子を彫ったガラスのトロフィーで、一位、二位、三位に授与され(大きさが、それぞれ異なる)、各クルーにはレプリカが授与された。

プログラムに記載されていないので、彼の正式な肩書は今だに分らないが、太郎は出席者全員のニーズを十分に満たしてくれ、人間が出来得ることをすべて行ってくれた。彼がこのシリーズの成功の原動力であったことは、疑いもない。



NORC協会ニュース

第103回理事会議事録

社団法人 日本外洋帆走協会

1. 日 時 昭和62年11月21日(土)15:00~18:00

2. 場 所 広島市松川町1-5
広島ターミナルホテル会議室

3. 出席者 33名(うち理事30名)

理事(出席20名)

秋田博正, 大儀見薫, 清水栄太郎, 久保和男, 朝河清, 石井正行, 今岡又彦, 清田 博, 児玉萬平, 篠原 要, 林賢之輔, 宮坂敬三, 渡辺修治, 川端治夫, 小林義彦, 都築勝利, 松木 哲, 山田東吾, 岩田行史, 末松 明

(委任状10名)

石原慎太郎, 塩路一郎, 山崎達光, 柴田邦敏, 林政幸, 矢野敏邦, 秋山福夫, 三井祥功, 平岡英信, 城間祥行

理事以外(3名)

船木幹也(北海支部長), 長江博人(安全委員長), 平野善美夫(泊地対策委員長)

4. 議 題

(1) 財務報告及び63年度予算編成方針の提示

(2) ORC 及び IYRU 会議報告

(3) 支部・委員会報告

(4) その他

5. 議 事

15:00 清水専務の司会により開会, 久保常務理事から出席理事30名で, 全員出席である旨の報告があり本理事会の成立を確認, 秋田副会長が議長となり議事録署名人に清田, 宮坂両理事を指名し議事に入った。

最初に, 清水専務理事から, このたび竹下新内閣の発足に伴ない, 石原会長が運輸大臣として入閣された。誠におめでたい事であり会員一同喜びにたえません。と祝意を述べ, 次いで, 運輸省はNORCの監督官庁であり, 石原会長が申請・報告をし, 石原大臣が許可・認可をするという事例が生じる, その他諸般の状況を考慮し, また, 石原会長の御意向もあり, 石原会長のNORC会長辞退と大儀見副会長の会長代行についてご承認を得たいと緊急提案があり満場一致承認された。

大儀見会長代行議長となる。

議題(1)財務報告及び63年度予算編成方針の提示について

児玉財務委員長から資料にもとづき概要次の報告が

あった。

収支の全般的状況は, 概ねバランスのとれた資金繰りを維持できている。会費登録費などの経常収入, 管理費などの経常支出は, ほぼ前年並みの水準を推移している。しかし, ダブルハンドレースを始めとして規模の大きなイベントが続いたため, 資金繰りの単位が千万円を超えることがしばしば起きようになってきた。今後も, このような傾向が拡大すると思われるので本部事務の効率化を早急にたちあげてゆく必要性を感じている。この10月の時点においても相当額の未収金, 未精算が残っており, 12月の決算時点においては, 本部収支のみでもともに1億円を超える見込みである。最終の収支バランスの見込みはまだ予断を許さないが, 昨年に引続き若干の黒字決算が可能となりそうである。その他資料にもとづき補足説明があった。

また, 来年度予算編成方針について

① 会費, 登録計測料金等の経常的収支は, 現状のとおりとする。

② 会員管理のコンピュータ化に伴う開発費, 事務処理料を別枠で計上する。会員名簿, 登録艇名簿の作成費用も同様である。

③ 新規会員を中心に自動引き落とし口座利用の推進キャンペーンを行う。

④ 本部要員の大幅変更に伴う人件費の増加要素は事務合理化によって吸収する。

⑤ 本部, 関東支部の会計分離作業を推進してゆく。

⑥ 本部レースであっても運営担当支部の負担が大きい場合, 運営補助金として支部会計に一部収益を振替えることを考慮中である。

⑦ 頒布物品の扱い品目の拡大と拡販を計る。

と提案があり承認された。

なお, 会友艇に関し, 登録料, 会友費計2万5千円のうち1万円を当該支部へ還付してはどうか, との提案があり, 財政上からは異議なしということで承認された。

議題(2)ORC 及び IYRU 会議の報告について

大儀見会長代行から大要次の報告があった。

今回は, 例年11月に行われている ORC 及び IYRU の総会のほかに IYRU のインターナショナルジャッジのセミナーがあり, 私と石井ルール委員長が出席した。さらに, アメリカズカップが12米艇か90フィート

艇かで紛争していることもあって国際12米協会の総会も開かれるなど盛況山であった。

ORC 総会では、今まで F-1 化してきた IOR に代ってレースも、クルージングもという一般外洋 (dual purpose—タプル用途) ヨットを対象に IMS ルールの普及と計測体制の整備充実を計ってきたが、いよいよ IMS の本格的な時代になったということが強く感じられた。IOR 艇は1986年の7469艇から1987年には10%減の6800艇前後になろう。IMS はアメリカが先行しており ORC はレーティングシステム委員会を設け、IMS ばかりでなくスカンジキャップ等を含めて対処することとなった。IMS はクルーザーであり、レーサーであり、かつアマチュアが乗れる艇のレーティングとして期待されている。IOR の上納金が22スイスフランから24スイスフランへと8%値上げされ、IOR、IMS 両者をとれば36スイスフランとなった。

IYRU とのからみもあるが、26条 (広告表示) は、正式には1988年の総会で決まるが、方向として出されているのはこの規定をレースルールからはずし、別に定めることとし、船体、セール、クルーのユニフォーム等についての表示が緩和される大勢は変わっていない。

また、レースをアマチュアレース、アマ・プロレース、プロレース、オープンレースの4カテゴリーに分け、プロはアマレースに出場できないという方向に大きく動いている。

そのほか、クルーリミテーション、水線下塗料、チーティング、マシン計測、ア杯使用艇、BBYC 主催1989年の12米クラスの世界選手権開催等について報告があった。

次いで石井ルール委員長から、IYRR 第26条に関連して先日行われたニッポンカップマッチレースの際、セールの広告表示の許可を、ニッポンカップマッチレース実行委員会が NORC を通じて ORC に上申したが、ORC は、このマッチレースが IOR に基づくレースではないということと、いずれにしろ IOR としては広告表示は IOR 艇以外には認めないというのが基本方針であり、ORC の管轄外であるとの判断を示した。一方これと併行してマッチレース実行委員会は、JYA を通じて IYRU に同内容の広告表示の許可を上申したいが一般慣例に従って許可となった。

この事例でも明らかなように、日本のヨット全体を実際に管轄する真のナショナルオーソリティが存在せず、文部省—JYA のラインと運輸省—NORC のラインが併立していることが不要な混乱を招いている。IYRU としては、一国の全ヨット活動を管轄するというのがナショナルオーソリティとしての最大の必要条件だ、としており、理事会でも前に承認された JYRU (Japan Yacht Racing Union) 構想を積極的に進めなければならないと思うと説明があった。

議題(3)支部、委員会報告について

①内海支部松木理事からメルボルン大阪ダブルハンドヨットレースは、4年後に実施するということが大阪市の非公式に言明している。次回も前回と基本的に同様の内容で実施すべきと思うが、この点の確認を求めたいと発言があり、了承された。また来年4月、瀬戸大橋開通記念ヨットレースが資料のとおり予定されているが、後援に NORC を入れることについて、了解を得たいと発言があり、承認された。

②小林東海支部長から、クルーザーレーティングに関し、本部に全国的な統一窓口が必要で、年1回会議を持つなりして各支部の意思統一を図ってもらいたい。と発言があり、普及活動はローカルレースを育てるなど各支部が行ない、ルール上の窓口は渡辺技術委員長が担当し、林計測委員長と連絡をとることとする。ことが了解された。

③西内海支部小林通信委員から「ヒロシマ・ピース・カップ'89」レースについて、資料にもとづき大要次の報告があり、資料によると IYRR 第26条の件を始め、各論で問題点はあるが、総論としてレースを推進することが了解された。

主 催	NORC、広島ヨットクラブ
レース区間	ホノルル→宮島約4000マイル
スタート	1989年6月18日
タイムリミット	1989年8月11日
クラス分け	レース艇、クルージング艇

④ 船木北海道支部長から日本海レースについて実施報告があり、ソ連は来年6月に行いたい意向で、また、HTV が開局20周年記念行事の一環として推進したいといっている。旨の現状報告と、来年度本部レースとして実施の方向での提案があった。渡辺技術委員長から当時のクルーザーレーティングに関する日本艇の計測受検状況の説明があり、清水専務理事から理事会ではソ連側の対応が沿海州でなくモスクワレベルであるということで本部レースとしたが、NORC ではモスクワサイドの委員がだれだかわからない状況であった。沿海州レベルならば支部スターとなろう。この件は時間を要するので、問題点を詰めて、必要なら再提案願いたい。旨の提案があり、了承された。

⑤ 宮坂帆走委員長から来年度本部レーススケジュールが資料により提案され大綱について了解され、次回、代議員会に提案されることとなった。

⑥ 平野泊地対策委員長から真鶴ウォーターフロント計画の進行状況及び伊豆諸島新島マリーナ構想計画について資料により説明があった。

⑦ 総務委員会、久保常務理事から会員管理をより正確迅速にするため、財務委員会と協力して会員管理のコンピュータ化の作業をしている。この作業を進めてゆくには会員登録異動伝票を会員から提出してもらう必要があり協力をお願いしたい。10月末現在の集計は資料のとおり33%である。11月末締切りで

再提出依頼しているので協力をお願いする旨説明があった。

議題(4)その他について

- イ. 清水専務理事から、11月15日までの新入会員214名の入会について報告があり、全員入会が承認された。
- ロ. ニッポンカップマッチレースについて大儀見議長及び石井ルール委員長から、資料をもとに概要説明があり、日本艇と外国艇とはかなりの力量差がある旨報告された。清水専務理事から来年の国内予選の方法について各支部は次の理事会までに検討してほしい旨の要望が述べられた。
- ハ. 久保常務理事から歌田事務局長が本年末で退職することとなり、現在後任を選考中である旨の報告があった。

他に質疑意見等はなく、以上で全議案を議了し、18:00、第103回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

昭和62年11月21日

議長	秋田 博正
〃	大儀見 薫
署名人	清田 博
〃	宮坂 敬三

〇

(注)1. 議題(3)の④項

12月現在日本海レースについては、1988年は中止。1989年は実施予定となっています。

2. 議題(3)の⑦項

会員登録異動伝票の集計状況は47%となっています。提出について一層のご協力をお願いします。

第14回 瀬戸内海汽船カップヨットレース

11月22日23日、第14回瀬戸内海汽船(通称SKK)カップヨットレースが、日本三景の一つ、宮島沿岸を舞台にレーシングクラス36艇、クルージングクラス43艇、遠くは西宮、博多よりの参加艇を迎え開催された。このレースは、1974年微風、軽風の多い瀬戸内に北の風が吹き始める季節にと、本格的レースを行いたいとNORCの会員であり、レンタルヨットを所有されている瀬戸内海汽船(通称SKK)の仁田一也会長に嘆願したところ、絶大なご理解とスポンサーシップにより今年で14回を迎えることができた。

22日、SKK所有の無人島、夏は海水浴場で賑わう絵島にて、7:00より艇長会議が行なわれる。続々とつめかける参加艇が、艇長のみを棧橋に降り、沖待ちするヨットの群が行き交う様は年々豪快に見える。

レース受付は、帆走指示書の説明、注意事項が、係船中のフェリーの車輻デッキでレース委員長から説明される。質疑応答の末、各艇長、優勝に胸ふくらませ各艇にバウ付けし、再度乗艇し、レース海面へと向う。

昨年、'86ジャパンビッグボートシリーズで〈美帆〉が優勝と、レース開催権を持ち帰り、ディフェンダー



第1レーススタート直後のつばぜり合い

〈美帆〉広島からは〈かづ〉〈美美〉〈バレーリーナ〉〈ビクトリーげん〉が参加し11月20日より同シリーズが始まり、第2レース、第3レースはSKKカップレースの第1レース、第2レースの15分前にスタートするため、SKKカップのレース艇を含め、スタートライン周辺は92艇のヨットが集い、壮観なヨット絵巻となる。

2~3mの北の風の中、スピンの花を咲かし、ビッグボート、SKKカップレース、クルージングクラス、レーシングクラスと15分おきにスタートが切られた。約20分、スタートに遅れた〈トゴーX〉の艇速に参加艇は呆然と見送ったことと思われる。

ビッグボートとレーシングクラスは、阿多田島へ、クルージングクラスは宮島西端へと軽風をつかみつ

つ、走らせることに神経を集中する。

10:00頃より風が落ち始めライトスピンに交換、煙草の煙にたよる程の風の方が変わる前の微風となる。

各艇、微風との苦闘が始まる。岩国沿岸の臨海工業地帯の煙穴の煙が真直ぐ昇ってゆく。ドリフターアップの指令。やっと効くかどうかの境目。

11:00頃レース運営艇より、コース短縮の通達が届く。わずかに南の風を感じる。ライトスピンにキールチェンジ。やっとスピンの開く。宮島西端の可部島を廻航し広島名物のカキイカダの群がる水面、宮島水道に入る。イカダの外側を帆走するには、遠廻りになるし、距離を稼ぐためにはイカダの中を縫って走らざるえない。

このイカダは、他のイカダと、継っているかどうか、ワイヤーの有無、ワイヤーの角度等を、ワッチさせ、報告により進入路を判断する。また、宮島水道は水深が浅いため、水深にも要注意。以前このレースの優勝艇が、浅瀬にバラキールを埋めこんだ事もあった。

山越えのブローに気を配り、イカダとの距離を見計らいながらの気の抜けない海域です。運営船より、イカダを抜けた所にフィニッシュラインを設置したとの連絡を聞く。イカダを繰り抜け、本部船とマークを確認。先行艇〈ブルーエンジェルⅡ〉を追う。

例年なら宮島水道を吹き抜ける北東の風が、約20回のタックの連続。宮島の大鳥居前のフィニッシュラインを切った時は、ウインチマンは、グロッキー寸前だったことを憶い出す。

今回は、クォーターから、直ランと変化しつつ、逆潮の影響を最少限にフィニッシュラインを切った。スピンを降し、ビールで「お疲れさま」と乾杯。

第1レースを終えた。レーシングクラスの〈エバーマウント〉が航行禁止の海域を走ったため幻のファーストフィニッシュとなった。

ビッグボートシリーズは、第1レースにつづき、第2レースもノーレースとなった。残すは明日23日の第3レースのみとなる。

宮島桟橋にもやいを取り、レセプション会場のSKK 所有の大型フェリーボート「石手川」を待つ。

広島港から、ビッグボートシリーズの参加者を乗せ、宮島桟橋にて、SKK カップの参加者約400人を乗せ出航。車輻デッキでレセプションが始まる。SKK 会長であり、仁田一也大会会長の挨拶、西内海支部長挨拶、宮島町長の歓迎のことばと続き、鏡割り、乾杯へと進行する。テーブルのビール、料理が参加者の口の中に消えていく。ひさびさのこころみ、宮島対岸地御前漁協の協力を得て、カキの殻付パーベキューコーナーは、



広島名物「かき」イカダ群を縫って走るレース艇

遠来艇のクルー、地元クルーが群がり、当レースに参加したことを満喫し美味さがつのり、宅配便でカキを送ってもらふ手続きをした人も多くあったと聞く。

会がだんだんと盛り上がり、女性クルー腕相撲大会が行なわれ、博多の〈麻里絵〉のクルーが、初代チャンピオンとなり、135°E. 提供の、SKK レセプション大賞カップを手にする。船内鳴り響く程のボリュームで女子大生バンドの演奏で当レース恒例のディスコ大会が始まる。今日のレースの疲れを吹き飛ばす様に額に汗を浮かべ踊る。ラストミュージックもなんのその、アンコールの連続で延々と続く……宮島入港前にレセプション参加者の中からラッキー賞の抽選が行なわれ〈パレリーナ〉の女性クルーにオシャレな自転車当る。全員からお祝いの歓声がわく。客室でレースの疲れで寝ている者を起こす。宮島に入港し、まだまだレセプションの余韻を残したまま下船、各艇に分散する。

11月23日、いまにも降りだしそうな、スタート海面に、ビッグボートシリーズ、当レースの参加艇92艇が



レセプション会場、フェリー「石手川」に乗り込むレース参加者

入り乱れ、昨夜のレセプションのばか騒ぎのことを忘れたような顔をし、集合する。

この夏、ヒロシマカップ宮島ヨットレースのスポンサー中国放送、NHK、ホームテレビ、テレビ新広島テレビ取材艇がレース艇の中を縫う様に走る。また、取材ヘリ中国放送、NHK 2機が上空を舞う。SKK 所有の観覧船「しろがね」が300余名の見学者を乗せスタート直前に到着。スタートを我愛しき人を見つけようと片舷に寄り、10°~15°ヒールしている。

小雨が降り始め、北の風5~6mの中、9:00、ビッグボート第3レース、SKK カップレース第2レース、クルージングクラス、レーシングクラスと15分毎にスタートする。スターボートで宮島寄りにポートで、能美島寄りにと、レース艇が別れる。我艇はスターボード艇の切れ目を掻いぐりポートでジャストスタートする。宮島に突っ込んだビッグボートの〈麻理絵〉〈コスモス〉があまり走っていない。宮島寄りをさけ、沖出しする。こまめなタックで、上マーク、2番目に廻航、ビッグの後続艇と観覧船「しろがね」がサイドマークを示してくれる。スピニアップ、トリムに気を付けながらサイドマークへ。サイドマーク廻航前、スピンをつぶさぬ様ジャイブを行なう。風が振れ廻るためスピントリムに注意する。レース見学のモーターボートが悪い波を残してくれる。下マーク廻航前「ゼノアアップ」「スピンドアウン」の号令にスピハリヤードがマストトップで絡らみ、うまくスピが降りてくれない。後続艇〈KIKIRARA〉〈ブルーエンジェルⅡ〉2艇に抜かれ、やっとスピが取り込まれた。最後の上りのみ、抜かれた艇を抜き返えしに全力を尽す。風が落ち、2~3mの風になる。能美島側を風をさがしながらのぼる。1艇抜きかえした。残るはあと1艇。上マークはSKK 所有のレスポール、観覧船が目印。マークと、本部船どちらが有利か見きわめつつタックを行なう。〈ブルーエンジェルⅡ〉を抜き返えさぬまま1分09秒の遅れで「2622〈REDTUXEDO〉フィニッシュ」の本部艇からのコールを受ける。「お疲れさん」の言葉を全員に掛ける。クルー全員レースの緊張が解け、

笑顔が交わされ、「ゼノアダウン」の指示をする。ゼノアが片付けられた所で、缶ビールで乾杯。本部船に「お世話になりました」の挨拶をする。

観覧船の乗客を逆に見学に行く。いつもヨット母子家庭の家族が手を振ってくれる。後続のレース艇は上マークの側1/3はのぼり、2/3はスピランと北風と南風がマーク間で喧嘩している様子。中間は、レース艇約半数が団子状態。風を拾うのに苦心している様子。ビッグボートシリーズの方は、2回目にのぼりに移っている。〈トーゴX〉がスピランで独走している。ビッグボートとSKK カップレースの運営船がコース短縮をレース艇に告げて走って行く。〈トーゴX〉がフィニッシュ。レース艇3/5がフィニッシュした時、13:30分のタイムリミットの号砲が鳴らされ、レースが終了した。フィニッシュしなかった艇の胸中を察する。

宮島の色ヶ浦浅橋で中国放送の取材カメラが廻される中、表彰式が開催された。各クラス毎に、優勝から3位までカップを、遠来艇には、遠来賞「生ガキ」を、入賞できなかった艇には順位賞、〈I'm Sorry〉〈タック〉〈CITY BOY〉〈TOP OF the morning〉〈SPICAⅢ〉、ラッキー賞にヤマハ提供のバイクが手渡され表彰式が終了した。

「また来年もレースで逢いましょう」の言葉が飛び交う中、参加各艇、もやいを解き各ホームポートへバウを向ける。

23日の夕方各取材放送局、ローカルニュースにSKK カップレース状況が放映された。翌、24日には中国放送のワイド番組に、ビッグボートの主催者〈美帆〉の浜田蔵治オーナー、SKK カップレース辻文治レース委員長出演で両レースの録画と2人のレース説明で25分間放映された。ヒロシマカップ宮島一周レースの提唱者の一人であり、NORCの会員である大野雅央ディレクターは、ヨットの普及に一途な思いで、5年間に13回もテレビ番組に取り上げられた方で、25分の放映のために徹夜で3台のカメラで録画したテープを編集されたとの事、誌上を借りて、お礼を申し上げます。

来年は10月10日・11日に第15回瀬戸内海汽船カップレースを行ないます。SKKの仁田一也会長も15年の節目に当り大々的に行ないたい意向ですので西内海支部一同、皆様のお越しを申し上げます。

第15回レースは全参加艇に満足していただくようなきつといい風が吹きます。

最後に我艇は、クルージングクラスで出場、第1・第2レース共、着順3位、4位、総合4位でした。

REDO (YAMA 33) 小林勝海



第2レースフィニッシュ直前の〈RED TUXEDO〉

スピラン2艇はビッグボート参加艇

写真提供：藤川龍生氏 (I-0151)

SKK87R: クラスI レーシングクラス

87/11/24

Sail	艇 名	T.C.F	チーム	第1レース	第2レース	総合成績
3643	ばあじえな	0.7511	R	2 4.50	2 3.00	7.50 1
3308	FANNY	0.7527	HIRO1	1 0.00	8 14.00	14.00 2
3764	プレイボーヤズ	0.7527	R	5 15.00	5 10.00	25.00 3
2692	NORA	0.7577	R	8 21.00	3 5.70	26.70 4
2634	テンンペスト	0.7577	R	3 8.55	0 21.00	29.55 5
2300	AMANOJAKU V	0.7771	R	6 17.55	7 13.00	30.55 6
3765	M-PROJECT	0.7527	R	7 19.50	6 11.70	31.20 7
3637	エバーマウント	0.7988	R	0 31.50	1 0.00	31.50 8
3382	アンタレス V	0.7527	HIRO2	4 12.00	0 20.00	32.00 9
3336	TACK	0.7691	R	0 30.00	4 8.00	38.00 10
3772	KONA WIND	0.7544	R	9 22.50	0 20.00	42.50 11
2388	か づ	0.7755	R	10 24.00	0 20.00	44.00 12
3456	PANSE	0.7511	R	0 30.00	0 20.00	50.00 13

SKK87R: クラスII レーシングクラス

87/11/24

Sail	艇 名	T.C.F	チーム	第1レース	第2レース	総合成績
2929	アルゴノート	0.7037	HIRO2	1 0.00	2 3.00	3.00 1
3669	I'm SORRY 3	0.7426	R	2 4.50	1 0.00	4.50 2
3412	CITY-BOY	0.7477	R	5 15.00	3 5.70	20.70 3
3434	スーパージュリー V	0.7443	HIRO2	10 24.00	5 10.00	34.00 4
3202	Top of THE MORNING	0.7477	R	12 27.00	4 8.00	35.00 5
3716	My Lady	0.6886	TOKU	3 8.55	0 33.00	41.55 6
3142	ディンプル 3	0.7426	R	4 12.00	0 33.00	45.00 7
3008	KAZAHAYA III	0.7426	R	6 17.55	0 33.00	50.55 8
2838	ペーパームーン	0.7426	HIRO1	7 19.50	0 33.00	52.50 9
2619	イオラス	0.7218	R	8 21.00	0 33.00	54.00 10
3631	バイバイボルシェ	0.7392	R	9 22.50	0 33.00	55.50 11
60	カイミロア	0.7409	R	11 25.50	0 33.00	58.50 12
3034	LOBSTER II	0.7358	R	13 28.50	0 33.00	61.50 13
3357	SPICA III	0.7494	R	14 30.00	0 33.00	63.00 14
3182	NENE	0.7392	R	15 31.50	0 33.00	64.50 15
2361	TARANTELLA 4	0.7358	TOKU	16 33.00	0 33.00	66.00 16
2449	ホワイトホースユミ	0.7306	R	17 34.50	0 33.00	67.50 17
3187	ウイング	0.7426	HIRO1	18 36.00	0 33.00	69.00 18
2372	NIXE	0.7358	R	19 37.50	0 33.00	70.50 19
3285	スピカ	0.7460	R	20 39.00	0 33.00	72.00 20
3023	TOY part 3	0.7392	R	21 40.50	0 33.00	73.50 21
3247	ホワイト ドラゴン	0.7460	R	22 42.00	0 33.00	75.00 22
3095	サブリーナ ツー II	0.7426	R	23 43.50	0 33.00	76.50 23
2909	ソレーチャ	0.7358	TOKU	0 49.50	0 33.00	82.50 24
1845	KAITO II	0.7218	R	0 49.50	0 33.00	82.50 24

87/11/24

総合成績

SKK87R : SORT レーシングクラス

87/11/24

Sail	艇名	T.C.F	チーム	第1レース		第2レース		総合成績	
3669	I'm SORRY 3	0.7426	R	2	4.50	1	0.00	4.50	1
2929	アルゴノート	0.7037	HIRO2	1	0.00	6	11.70	11.70	2
3643	ばあじえな	0.7511	R	7	19.50	3	5.70	25.20	3
3412	CITY-BOY	0.7477	R	6	17.55	7	13.00	30.55	4
3308	FANNY	0.7527	HIRO1	4	12.00	13	19.00	31.00	5
3764	プレイボーヤズ	0.7527	R	15	31.50	8	14.00	45.50	6
2692	NORA	0.7577	R	20	39.00	4	8.00	47.00	7
3434	スーパージュリー V	0.7443	HIRO2	14	30.00	12	18.00	48.00	8
3765	M-PROJECT	0.7527	R	18	36.00	9	15.00	51.00	9
2300	AMANOJAKU V	0.7771	R	17	34.50	11	17.00	51.50	10
3202	Top of THE MORNING	0.7477	R	19	37.50	10	16.00	53.50	11
3716	My Lady	0.6886	TOKU	3	8.55	0	45.00	53.55	12
3142	ディンブル 3	0.7426	R	5	15.00	0	45.00	60.00	13
3008	KAZAHAYA III	0.7426	R	8	21.00	0	45.00	66.00	14
2634	テンンペスト	0.7577	R	9	22.50	0	46.00	68.50	15
2838	ペーパームーン	0.7426	HIRO1	10	24.00	0	45.00	69.00	16
3382	アンタレス V	0.7527	HIRO2	11	25.50	0	45.00	70.50	17
3637	エバーマウント	0.7988	R	0	69.00	2	3.00	72.00	18
2619	イオラス	0.7218	R	12	27.00	0	45.00	72.00	18
3631	バイバイボルシェ	0.7392	R	13	28.50	0	45.00	73.50	20
3336	TACK	0.7691	R	0	67.50	5	10.00	77.50	21
60	カイミロア	0.7409	R	16	33.00	0	45.00	78.00	22
3034	LOBSTER II	0.7358	R	21	40.50	0	45.00	85.50	23
3357	SPICA III	0.7494	R	22	42.00	0	45.00	87.00	24
3182	NENE	0.7392	R	23	43.50	0	45.00	88.50	25
2361	TARANTELLA 4	0.7358	TOKU	24	45.00	0	45.00	90.00	26
2449	ホワイトホースユミ	0.7306	R	25	46.50	0	45.00	91.50	27
3187	ウイング	0.7426	HIRO1	26	48.00	0	45.00	93.00	28
3772	KONA WIND	0.7544	R	27	49.50	0	45.00	94.50	29
2372	NIXE	0.7358	R	28	51.00	0	45.00	96.00	30
3285	スピカ	0.7460	R	29	52.50	0	45.00	97.50	31
2388	かづ	0.7755	R	30	54.00	0	45.00	99.00	32
3023	TOY part 3	0.7392	R	31	55.50	0	45.00	100.50	33
3247	ホワイト ドラゴン	0.7460	R	32	57.00	0	45.00	102.00	34
3095	サブリーナ ツー II	0.7426	R	33	58.50	0	45.00	103.50	35
3456	PANSE	0.7511	R	0	67.50	0	45.00	112.50	36
2909	ソレーチャ	0.7358	TOKU	0	67.50	0	45.00	112.50	36
1845	KAITO II	0.7218	R	0	67.50	0	45.00	112.50	36

チーム優勝 広島2(アルゴノート、スーパージュリーV、アンタレスV)

SKK87C: クラス I クルージングクラス

87/11/24

Sail	艇 名	T.C.F	チーム	第1レース	第2レース	総合成績
2385	ブルーエンジェルII	0.7544	C	1 0.00	3 5.70	5.70 1
1001	サンブリーズ	0.7544	C	3 8.55	2 3.00	11.55 2
2459	KiKiRaRa	0.7146	C	7 19.50	1 0.00	19.50 3
2622	RED TUXEDO	0.7511	C	4 12.00	4 8.00	20.00 4
13	黄色パンツはフンフン	0.7494	C	11 25.50	7 13.00	38.50 6
1917	OPUS	0.7271	C	10 24.00	12 18.00	42.00 7
2535	スプリットオブ広島	0.9377	C	16 33.00	5 10.00	43.00 9
1188	光	0.7236	C	12 27.00	11 17.00	44.00 10
!	Love Bird II	0.7000	C	14 30.00	9 15.00	45.00 11
2059	AKI III	0.7577	C	19 37.50	6 11.70	49.20 12
157	フェニックス II	0.7018	C	18 36.00	10 16.00	52.00 13
3183	MAHORO	0.7000	C	17 34.50	14 20.00	54.50 14
1184	疾 風	0.7271	C	22 42.00	15 21.00	63.00 15
3784	Dear Ellie	0.7218	C	5 15.00	0 51.00	66.00 16
3791	PACIFIC PHOENIX	0.7416	C	20 39.00	0 51.00	90.00 21
17	リバティ II	0.7000	C	23 43.50	0 51.00	94.50 23
3474	KARAKORUM	0.7306	C	24 45.00	0 51.00	96.00 24
2719	安 芸 V	0.7358	C	26 48.00	0 51.00	99.00 26
3064	ima	0.7358	C	27 49.50	0 51.00	100.50 27
013	AIAN	0.7000	C	28 51.00	0 51.00	102.00 28
881	おんど	0.7018	C	29 52.50	0 51.00	103.50 29
18	Madonna	0.7000	C	30 54.00	0 51.00	105.00 30
882	はやせ	0.7018	C	31 55.50	0 51.00	106.50 31
833	ザワークレイ III	0.7018	C	32 57.00	0 51.00	108.00 32
3454	ガンバファミリ	0.7037	C	33 58.50	0 51.00	109.50 33
2267	綾 姫	0.7271	C	34 60.00	0 51.00	111.00 34
3218	鯨 III	0.7306	C	36 63.00	0 51.00	114.00 36
3431	ブレアデス	0.7018	C	38 66.00	0 51.00	117.00 38
14	バレリーナ	0.9958	C	40 69.00	0 51.00	120.00 40

SKK87C: クラス II クルージングクラス

87/11/24

Sail	艇 名	T.C.F	チーム	第1レース	第2レース	総合成績
1600	ミ ラ	0.6650	C	2 4.50	13 19.00	23.50 5
3049	くぶくぶ III	0.6924	C	13 28.50	8 14.00	42.50 8
2525	瀬戸は日暮て夕波小波	0.6568	C	6 17.55	0 51.00	68.55 17
1607	エアロス	0.6848	C	8 21.00	0 51.00	72.00 18
108	SAORI	0.6568	C	9 22.50	0 51.00	73.50 19
1506	ブルースカイ II	0.6886	C	15 31.50	0 51.00	82.50 20
889	ゆりしま	0.6650	C	21 40.50	0 51.00	91.50 22
2500	スーパーミミ	0.6809	C	25 46.50	0 51.00	97.50 25
19	MOSA	0.6924	C	35 61.50	0 51.00	112.50 35
2395	エリエス	0.6924	C	37 64.50	0 51.00	115.50 37
15	帆	0.6886	C	39 67.50	0 51.00	118.50 39
2366	チャオ	0.6924	C	0 76.50	0 51.00	127.50 41
YUKI	YUKI III	0.6962	C	0 76.50	0 51.00	127.50 41
2314	ランジェ	0.6730	C	0 76.50	0 51.00	127.50 41

総合成績

SKK87C: SORT クルージングクラス

87/11/24

Sail	艇 名	T.C.F	チーム	第1レース	第2レース	総合成績
2385	ブルーエンジェルII	0.7544	C	1 0.00	3 5.70	5.70 1
1001	サンブリーズ	0.7544	C	3 8.55	2 3.00	11.55 2
2459	KiKiRaRa	0.7146	C	7 19.50	1 0.00	19.50 3
2622	RED TUXEDO	0.7511	C	4 12.00	4 8.00	20.00 4
1600	ミ ラ	0.6650	C	2 4.50	13 19.00	23.50 5
13	黄色パンツはフンフンフン	0.7494	C	11 25.50	7 13.00	38.50 6
1971	OPUS	0.7271	C	10 24.00	12 18.00	42.00 7
3049	くぶくぶ III	0.6924	C	13 28.50	8 14.00	42.50 8
2535	スプリットオブ広島	0.9377	C	16 33.00	5 10.00	43.00 9
1188	光	0.7236	C	12 27.00	11 17.00	44.00 10
!	Love Bird II	0.7000	C	14 30.00	9 15.00	45.00 11
2059	AKI	0.7577	C	19 37.50	6 11.70	49.20 12
157	フェニックス II	0.7018	C	18 36.00	10 16.00	52.00 13
3183	MAHORO	0.7000	C	17 34.50	14 20.00	54.50 14
1184	疾 風	0.7271	C	22 42.00	15 21.00	63.00 15
3784	Dear Ellie	0.7218	C	5 15.00	0 51.00	66.00 16
2525	瀬戸は日暮て夕波小波	0.6568	C	6 17.55	0 51.00	68.55 17
1607	エアロス	0.6848	C	8 21.00	0 51.00	72.00 18
108	SAORI	0.6568	C	9 22.50	0 51.00	73.50 19
1506	ブルースカイ II	0.6886	C	15 31.50	0 51.00	82.50 20
3791	PACIFIC PHOENIX	0.7416	C	20 39.00	0 51.00	90.00 21
889	ゆりしま	0.6650	C	21 40.50	0 51.00	91.50 22
17	リパティ II	0.7000	C	23 43.50	0 51.00	94.50 23
3474	KARAKORUM	0.7306	C	24 45.00	0 51.00	96.00 24
2500	スーパーミミ	0.6809	C	25 46.50	0 51.00	97.50 25
2719	安 芸 V	0.7358	C	26 48.00	0 51.00	99.00 26
3064	ima	0.7358	C	27 49.50	0 51.00	100.50 27
013	AIAN	0.7000	C	28 51.00	0 51.00	102.00 28
881	おんど	0.7018	C	29 52.50	0 51.00	103.50 29
18	Madonna	0.7000	C	30 54.00	0 51.00	105.00 30
882	はやせ	0.7018	C	31 55.50	0 51.00	106.50 31
833	ザワークレー III	0.7018	C	32 57.00	0 51.00	108.00 32
3454	ガンバファミリー	0.7037	C	33 58.50	0 51.00	109.50 33
2267	綾 姫	0.7271	C	34 60.00	0 51.00	111.00 34
19	MOSA	0.6924	C	35 61.50	0 51.00	112.50 35
3218	鯨 III	0.7306	C	36 63.00	0 51.00	114.00 36
2395	エリエス	0.6924	C	37 64.50	0 51.00	115.50 37
3431	ブレアデス	0.7018	C	38 66.00	0 51.00	117.00 38
15	帆	0.6886	C	39 67.50	0 51.00	118.50 39
14	バレリーナ	0.9958	C	40 69.00	0 51.00	120.00 40
2366	チャオ	0.6924	C	0 76.50	0 51.00	127.50 41
YUKI	YUKI III	0.6962	C	0 76.50	0 51.00	127.50 41
2314	ランジェ	0.6730	C	0 76.50	0 51.00	127.50 41

ミドルボート全日本選手権

1988レース案内

関西ビックボート選手権

ミドルボート全日本選手権1988レース案内

ミドルボート全日本選手権1988の参加資格、日程、エントリーフィーが決まりましたのでお知らせ致します。

主 催 日本ミドルボートクラブ
主 管 日本外洋帆走協会内海支部

1. 参加資格

(A) オフィシャルクラス

IOR MK-ⅢもしくはJORの有効なレーティングを保有しORC特別規定カテゴリーⅢ以上、NORC特別規定カテゴリーB以上の有効な安全検査書を保有しているレーティング20.00フィート以上25.99フィート以下の艇とする。

(B) オープンクラス

船舶安全法にもとづく、日本小型船舶検査機構の安全検査（大阪湾および接続する限定沿海）を受検合格した全長26フィート以上36フィート未満の艇で、当レース委員会が決定するレーティングに従ってエントリーを行った艇とする。

2. 日 程

(A) オフィシャルクラス

出艇申告 昭和63年 3月11日 関西ヨットクラブ
艇長会議 〃
第1レース 昭和63年 3月12日 トライアングルコース
パーティ 昭和63年 3月12日
第2レース 昭和63年 3月13日 トライアングルコース
第3レース 昭和63年 3月19日 トライアングルコース
第4レース 昭和63年 3月19～20日 ロング100マイル
第5レース 昭和63年 3月21日 トライアングルコース
表彰式 昭和63年 3月21日

(B) オープンクラス

第3、第4レースを除く、トライアングルコース3レースで行う。

3. 参加申込方法

申込先 日本ミドルボートクラブ関西事務局

(A) オフィシャルクラス

提出書類 所定の申込書
レーティング証書のコピー

安全検査書のコピー

出艇料 5万円
参加料 1名につき1万円（クラブ主催パーティ費を含む）
締切日 昭和63年 2月末日
※出艇料参加料は提出書類の発送と同時に所定の口座に振込むこと。

(B) オープンクラス

提出書類 所定の申込書
出艇料 3万円
参加料 1名につき3,000円
締切日 昭和63年 2月末日
※出艇料参加料は提出書類の発送と同時に所定の口座に振込むこと。

4. 安全検査、インスペクション

すべての参加艇は昭和63年 3月11日18:00までにレース委員会が行う安全検査及びインスペクションを受けて合格しなければならない。

5. 係留地

西宮ヨットハーバー
無料係留の期間 3月4日～3月28日

6. 問い合わせ先、書類送付先

日本ミドルボートクラブ関西事務局
〒659 芦屋市東山町7-21 ウェザーサイド内
☎ 0797-31-3228
FAX 0797-31-2234
受付 09:00～20:00 火曜定休

関西ビックボート選手権1988レース案内

関西ビックボート選手権1988の参加資格、日程、エントリーフィーが決まりましたのでお知らせ致します。

主 催 日本外洋帆走協会内海支部

1. 参加資格

IOR MK-Ⅲの有効なレーティングを保有しORC特別規定カテゴリーⅢ以上、NORC特別規定カテゴリーB以上の有効な安全検査書を保有しているレーティング26.00フィート以上の艇とする。

2. 日程

出艇申告	昭和63年3月11日	関西ヨットクラブ
艇長会議	〃	
第1レース	昭和63年3月12日	トライアングルコース
パーティ	昭和63年3月12日	
第2レース	昭和63年3月13日	トライアングルコース
第3レース	昭和63年3月19日	トライアングルコース
第4レース	昭和63年3月19～20日	ロング100マイル
第5レース	昭和63年3月21日	トライアングルコース
表彰式	昭和63年3月21日	

3. 参加申込方法

申込先	日本外洋帆走協会内海支部
提出書類	所定の申込書 レーティング証書のコピー 安全検査書のコピー NORC 会員証のコピー

出艇料	70,000円
参加料	会員 5,000円 非会員8,000円
締切日	昭和63年2月末日

※出艇料参加料は提出書類の発送と同時に所定の口座に振込むこと。

4. 安全検査、インスペクション

すべての参加艇は昭和63年3月11日18:00までにレース委員会が行う安全検査及びインスペクションを受けて合格しなければならない。

5. 係留地

西宮ヨットハーバー

6. 問い合わせ先、書類送付先

日本外洋帆走協会内海支部
〒672 姫路市八家1296-39(妹尾方)
☎ 0792-46-2836

'88 ソウルオリンピック協賛 第1回 済州島—長崎ヨットレース

実施要領

長崎県内のヨットクラブを中心として組織する「済州島—長崎ヨットレース実行委員会」では、来年韓国で開催されるソウル・オリンピックを記念して「第1回済州島—長崎ヨットレース」を実施いたします。

長崎県から真西約170マイルに位置する、韓国第1の観光地“風と神話・伝説の島”済州島。

長崎から済州島へ、そして済州島から佐世保へと、東シナ海を舞台として、外洋ヨットによって繰り広げられる、本格的な外洋ヨットレースです。

本レースは、全国のヨットマンに広く参加を呼びかけて、航程170マイル、参加艇は30隻、参加人員は250名と、西日本では最大規模の外洋ヨットレースとなります。

海洋県長崎のイメージアップ、そして来たる1989年の「佐世保開港100周年」、さらに、1990年の「旅博」へ向けて非常に衆目効果の高いイベントになるものと確信しております。

つきましては、下記実施要領を参照の上多数ご参加いただきますようご案内いたします。

済州島—長崎ヨットレース実行委員会

会長 上田 良久

1. 主催 済州島—長崎ヨットレース実行委員会

- ・九州外洋帆走協会・(社)長崎ヨットクラブ
- ・ウエスタンマリヨットクラブ・佐世保ヨットクラブ

- ・川棚ヨットクラブ・大村ヨットクラブ
- ・小浜ヨットクラブ・長与ヨットクラブ
- ・神戸インターオシャンヨットクラブ
- ・(社)日本外洋帆走協会玄海支部

名誉会長 長崎県知事(予定)

顧問 長崎・佐世保・大村各市長(予定)
〃 長与・川棚・小浜・伊王島各町長(〃)

会長 上田 良久

副会長 合田 督

〃 福元 征四郎

実行委員長 松尾 晃

実行委員 里見 公義(運営)

〃 都甲 泰臣(渉外)

〃 佐々木 康夫(事務局)

〃 金崎 明(レース)

〃 中林 幸嗣 他

2. 後援(予定)

韓国側

済州道、済州大学校、済州地方海運港湾廳韓国観光公社、済州道観光協会、済州新聞、KBS 済州総局、済州文化放送、

日本側

長崎県、長崎市、佐世保市、大村市、長与町、川棚町、小浜町、伊王島町、長崎県観光連盟、長崎市観光協会、佐世保市観光協会、長崎県ヨット連盟、長崎新聞社、スポーツニッポン新聞、NHK、

NBC 長崎放送, KTN テレビ長崎, 長崎「旅」
博覧会協会,

3. 日程

- 4月28日(木) 長崎港集結, 出国手続
15:00 艇長会議・パーティー
18:00 長崎出航(五島南回り)
200 miles
30日(土) 10:00 済州港入港
5月1日(日) 済州大学学生, 現地青少年体験
セーリング
18:00 親善パーティー
2日(月) 10:00 レーススタート(済州港沖)
170 miles
4日(水) 12:00 タイムリミット(佐世保港口)
18:00 表彰式

4. 参加資格

外洋レースに耐えるクルーザー
(詳細は問い合わせ下さい)

5. 参加料

- 出艇料: 30,000円/1艇
参加料: 10,000円/1人
○出入国手数料及びパーティー料を含みます。
○ホテル宿泊, 島内観光を希望される方は別途費用
がかかります。(2泊3日で約3万円)

6. 参加申込

別紙様式により, 下記へ申し込んで下さい。

☎852 長崎市横尾2丁目17番9号
済州島—長崎ヨットレース実行委員会事務局 宛
☎0958-56-3201(佐々木)

ホテルの宿泊及び島内観光の希望は, 時期が5月の連休にあたり相当混雑が予想されるため, 事前に予約の必要がありますので, 確実に記入してください。

7. 参加料等

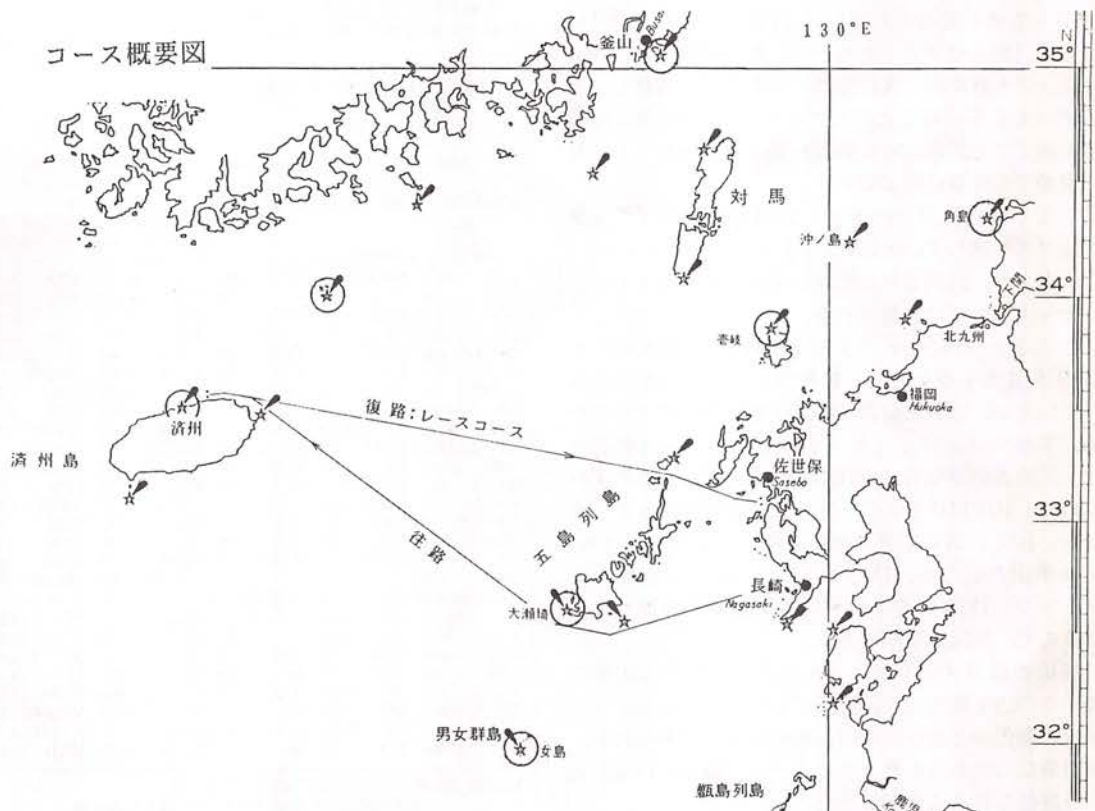
出艇料及び参加料は下記へ振り込み下さい。
○十八銀行 桜町支店 普通口座 547915
○親和銀行 中町支店 普通口座 0028622
済州島—長崎ヨットレース実行委員会 宛
○郵便振替 長崎—1-16532
済州島—長崎ヨットレース実行委員会 宛

8. 参加締切

申込締切: 昭和63年2月15日
ただし, 済州港の係留の都合等により, 30艇で締切らせていただきます。

7. 問い合わせ

☎857 佐世保市須田尾町457-8
松尾 晃
☎夜 0956-34-0438
昼 0956-24-2111(内線2302)



計測委員より

1. マシン計測に成功

当委員会では、昨年ドイツより購入した計測器によるマシン計測を試行してきたが、やっと IOR レーティング、IMS ハンデキャップを算出することに成功したので報告する。

計測場所 霞が浦ヨットハーバー

計測艇 Sail No. 3699 NOVA 40 (HAYASHI-30)

参加者 大橋且典、伊藤静美、高橋太郎、沢地繁、林賢之輔

NOVA 40は、IOR・マニュアル計測を受けて計測証書を持っていること、筆者設計の艇なので、線図をはじめ、あらゆる情報提供ができること、艇が計測に都合のよい船台にのって上架されていること、オーナーの植原俊雄文氏が心良く協力してくれたことなど、好条件が重なり、選択実行された。

10月10日午後1時集合、場所選択（なるべく風のあたらないところ、人の通りが少ないところ）、艇の設置（左右の水平、前後トリム修正）、ベースライン設置とスムーズに進み計測開始、途中、糸（スチール・ワイヤー：距離を測るもの）が切断したり、前途多難を思わせたが、午後8時には右舷側の計測を終了した。翌日、朝8時から左舷側の計測を行い、午後1時に終了した。IORの計測のほかに、プロペラやマストなど、IMSのための追加の計測も行なわれた。ただしフリーボード計測とリグおよびセール、傾斜テストは、IORマニュアル計測時に実行されているので、省略し、そのデータを用いることにした。（これらの計測には条件が良くても、さらに数時間を要するであろう）これで現場での作業は終了である。

ここで得られたデータは、計測器付属のブラックボックスを通じて、ハンドコンピューター（エプソン）に入力され、計測された断面形を出力するとともに、カセットテープに保管される。

このテープからデータを読み込み、IORMP や IMS を算出するために、数種のプログラムが用意されているが、これらは、IBMPC 用に使われているため、本部のコンピューター（NEC 9801）では作動せず、沢地委員が所有するIBMPC を借用し計算が実行された。IORMP（マシン計測により採取したデータから、IOR 計算に必要な数値を取り出すプログラム）は無事出力したが、IMS は出てこない。〈error〉でストップ。IMS のソース・プログラムは公開されているので、原因も不明である。

高橋委員のメジャラーズ・コンファレンス出席の際、この辺を徹底的に調査してもらうことになった。同氏の報告のとおり、原因は簡単なことであったし、お世辞にしても「大変上手にデータが取れている」という評価も得ることができた。

ここに至るまでには、〈YR 30〉（ヤマハ発動機）、〈スィスイ〉（松崎孝男氏）、〈かぐや姫〉（初鹿野幸生氏）による訓練実習や、花川・大矢両委員（東海）による徹夜の試行錯誤など、努力物語があり、御協力いただいたオーナー各位には御礼申し上げたい。

IBMPC による NOVA 40 の IOR、IMS のアウトプットを掲載しておく。

1 IOR AMENDED TO JANUARY 1987

NOVA 40
3699
RATING 22.77 FEET

I CERTIFY THAT I UNDERSTAND
MY RESPONSIBILITIES AS
COVERED IN THE IOR
SIGNED: -

CERTIFICATE NO. 377 PAGE 1
MEASUREMENTS: METRES & KILOGRAMS
CLASS : HAY-30 STD.
DESIGNER : K. HAYASHI
BUILDER : FURUYA SEISAKU
RIG : SLOOP
KEEL : FIXED
PROPELLER: FOLDING
INSTALLED: EXPOSED SHAFT

REVAL AUTHORITY: -
NOT VALID AFTER: 31 DECEMBER 1987
ISSUED:
BY: -

TOSHIO UEHARA
503 SAKURAMURAKISE NIHARI-
GUN IBARAGI-KEN JAPAN

MEASUREMENT INVENTORY TO FORM PAGE 3
FLOTATION DATE: 1/5/87
SPECIFIC GRAVITY (SG): 1.025

1-5-16 TORANOMON
MINATOKU TOKYO JAPAN
NIPPON OCEAN RACING
CLUB (N.O.R.C)

COMMENTS	DATES	
	MOD	HULL
MACHINE MEASUREMENT	0/	0
	SERIES	0/
	RIG	0/ 587
	AGE	5/1987

HULL & APPENDAGES											
LOA	9.031	BMAX	3.084	FF	.807	AW	10.000	APD	28.000		
FGO	.489	B	2.825	FFI	.796	BW	20.000	BPD	56.000		
AGO	1.114	BWL	2.257	FFD	.780	CW	10.000	CPD	27.000		
LBG	7.428	BF	.458	FMD	.775	DW	20.000	DPD	55.000		
GSDA	.385	BFI	.942	FBM	.779	AWD	4.563	PL	1500.000		
GLAI	.000	BAI	2.482	FAI	.792	BWD	4.563	SBMAX	5.144		
GSDF	.536	BA	2.291	FA	.796	CWD	4.563	SPD	5.637		
FD	1.059	GD	.688	VHAI	.767	DWD	4.563	SDM	4.203		
CMD	1.136	Y	1.114	VHA	.657	MAW1	.000	MAW2	.000		
MD	1.034	GDFI	.000	BHAI	.751	MACG1	.000	MACG2	.000		
OMD	.786	DM	1.714	BHA	.641	MACL	.000	MACO	.000		
WLH1	.677	DMT	2.489	PDT	1.301	PD	.520	ESD	.349		
TWL1	2.508	TWL2	2.390	TWL3	2.262	TWL4	2.132	TWL5	1.991		
EW	112.000	EDW	.897	ESL	.681	ESC	.183	PRD	.361		
PSD	1.000	ST1	.025	ST2	.096	ST3	.096	PBW	.095		
CD	.000	WCBA	.000	WCBB	.000	CBDA	.000	CBDB	.000		
DMC	.000			CBLDA	.000	CBLDB	.000				

HEADSAIL						MAINSAIL					
I	10.450	SPL	3.002	P	11.255	BL1	.725	PC	11.255		
J	3.029	SL	10.290	E	4.261	BL2	.725	IC	10.450		
LPG	4.480	SMW	5.450	BAL	.150	BL3	.810	JC	3.029		
LPIS	.000	HBS	.000	BD	.140	BL4	.810	EC	4.261		
FSP	.054	SPS	1.689	BAS	1.379	BL5	.000	MXSL	10.336		
FJ	.817	SFJ	.000	HB	.165	BLP	2.390	MXSMU	5.452		
FBI	.779	ISP	10.488	MW	.127	MGU	1.500	MXLPG	4.490		
IG	10.484	TCI	.075	GO	.127	MGM	2.720	MXJL	10.913		

MEASURED ON: - 11/10/87 BY: - K. ITOH
DIAGNOSTICS AND TILT: YACHT NOVA 40

CERTIFICATE NO. 377 NOVA 40
PAGE 2 3699

FREEBOARDS			RM		PROP & CB		
FJS	.871	DMS	1.706	ARM	42.778	PF	.850
FFS	.851	PDS	.527	BRM	42.778	PS	.361
FFIS	.835	ESDS	.349	CRM	44.363	DF	.023
FFDS	.806	MDIAS	.000	DRM	43.556	EMF	.004
FBIS	.798	BBS	.514	RM	43.369	PRDC	.361
FBMS	.777	BSC	.000	RMC	43.369	PDC	.520
FMDS	.783	CFFI	.003	TR	31.367	RD	1.714
FAIS	.767	SINK	.044	SV	-.532		
FAS	.767	TRIM	.073	W	-7.051		

	L/FC		D/DC		LIMITS		
FOC	.047	AGSL	2.708	FDI	.279	BL1	.731
AOC	-.229	APSL	3.384	FDIC	.274	BL2	.731
AOCO	-.229	BAPSL	3.533	CMDI	.361	BL3	.816
AOCP	-.029	APSLC	3.533	MDI	.259	BL4	.816
AOCG	-.430	ACG1	-.404	OMDI	.011	BLP	2.251
YCOR	.000	ACG2	-.430	MDIA	.201	HB	.170
FB	.800	HGLA	1.403	DB	1.721		
FM	.801	HGL	1.580	DD	-.008		
CCAI	.000	BDR	1.036	DSPL	2221.		

—HEAD/MAIN—		—PENALTY—		—MIZZEN & PEN—		—SCH & PEN—	
LP	4.54	SL	.000	RSAY	.00	RSAB	.00
RSAF	23.29	SPS	.000	RSAK	.00	RSAG	.00
SAM	19.11	HBS	.000	YSAC	.00		
MSAM	10.27	HB	.000	RSAC	.00	HBF	.000
RSAM	18.78	BD	.000			BDF	.000
RGF	.9826	BAS	.000	HBV	.000	BADS	.000
SATC	-.36	I/P	.000	BDY	.000	I/PSF	.000
RSAT	41.72	BLP	.000	BADY	.000	BLPS	.000
RSAL	24.42	BTNS	.000	I/PY	.000	BTNSF	.000
SPIN	31.62	MG	.000	BLPY	.000		
SHR	15.6633			BTNY	.000		
S	6.4590	SCF	1.0000				

RATING VALUES				III A			
L	7.6106	SC	6.4590	MAF	1.0000	SCA	6.7869
B	2.8250	DC	-.0024	DLF	1.0169	DLFA	1.0414
D	.8840	FC	-.0003	LRP	1.0000	CBFA	1.0000
CGF	.9700	CBF	1.0000	MR	7.3575	CGFA	.9700
EPF	.9723	SMF	1.0000	R	6.9394	MRA2	7.7387
TPF	1.0000	CSF	1.0021			RA	6.9394

SAIL LIMITS R-22.8 FT. JIBS OVER 1.1J : 3 SPINNAKERS : 3
MAXIMUM CREW : NUMBER LIMIT-7 WEIGHT-596

2. マシン計測の利点

マシン計測には、マシンが持っているデリケートさ、各種のプログラムを扱うためのオペレーターの問題、データの取扱い（著作権を含む）の問題など、現状では欠点もある。しかし、マシン計測の最大の利点は、プロダクション・ボートを計測することにより得られる。何故なら、1艇を丁寧に計測すれば、スタンダード・ハル・データが得られ、次艇からの計測は、フリーボード、リグ・セール、傾斜テストだけで済すことができるし、将来、ルール変更があったとしても、ハルデータから計算によって求めることができるからである。実際に、マシン計測発祥地のアメリカ（USYRU）では、約400種のプロダクションボートがスタンダード・ハルを持っており、IORでもIMSでも、このデータを持って（必要な計測値を加えて）アウトプットを得ることができる。

最近、円高の影響もあって海外からの輸入艇が増加しているが、それらの中には、すでにスタンダード・ハルデータを持っているものもある。国際間ルールであるから、日本でそのデータを利用することも可能である。現在、当委員会では、それを受け入れられる様、準備を進めている。

3. IMSについて

IMSはIORと異なり、レーティングを与えずにハンディキャップを与える。ハンデはタイム・アロワンスという形で与えられ、1マイルを走る所要時間（秒）が与えられるから、レースコースの距離がわかれば、各艇の持ち時間が決り、優劣が決まる。風速によってもアロワンスが変わるし、風向によってもアロワンスを変えることができる。この辺の事情と、レース運営については、ORCからIMS・レース・コミッティー・ガイドが発行されているので、参照していただきたい。

IORがグランプリ化している現在、IMSは、様々なクルーザーや、デュアル・パーパス（クルーザー／レーサー）ボートに対して、フェアなハンディキャップを与えると同時に、健全なオフショア・ボートとしての自己復原性についても、ガイドラインを導き出そうとして作られたものである。

IMSの計測（マシンによる）にはIORマニュアル計測と同様（または、それ以上）に、時間と費用がかかってしまうが、世界的に受け入れられ、発展しようとしているものである。NORCでどのように迎えられるかは、会員各位の意識次第である。比較的簡便なCRレーティングも発展途上にあるし、いろいろなレーティング・ルール、ハンディキャップルールを使ってみて、自分達に合ったものを求めていくことが必要であろう。

記 林 賢之輔

IMS・アウトプット

—TIME ALLOWANCES
IN SECONDS PER MILE

GENERAL PURPOSE
(LINEAR RANDOM 10)

625.9 SEC/MI

TRUE WIND	WIND WD/LEEW	OLYM PIC (6-LE ARD)	CIRCU LAR G)	LINEA R OM	NON-SPIN- RAND OM	NAKER
8KT:	934.1	866.0	716.7	691.3	745.3	
10KT:	811.3	769.8	642.4	625.9	667.7	
12KT:	735.9	716.2	599.7	586.2	618.2	
14KT:	695.0	684.9	574.3	561.0	586.7	
16KT:	668.7	663.5	555.5	541.2	565.1	

—SPEED AS A FUNCTION OF SAILING CONDITION—

VTW	OPTIMUM BEAT				OPTIMUM RUN		
	BTW	V	VMG	HEEL	BTW	V	VMG
8	44	5.305	3.841	14	141	4.989	3.867
10	41	5.550	4.211	19	161	4.958	4.690
12	39	5.676	4.413	22	168	5.612	5.488
14	38	5.755	4.527	24	173	6.099	6.054
16	38	5.825	4.595	24	175	6.529	6.499
20	38	5.925	4.670	25	175	7.309	7.281

VTW	REACH BTW=80		REACH BTW=110		REACH BTW=135		RUN BTW=180	
	V	HEEL	V	HEEL	V	HEEL	V	HEEL
8	6.313	13	6.216	4	5.381	2	3.742	
10	6.679	22	6.721	7	6.095	2	4.586	
12	6.984	17	7.131	12	6.572	3	5.421	
14	7.206	23	7.469	17	6.996	3	6.030	
16	7.343	27	7.737	22	7.401	4	6.481	
20	7.544	28	8.092	28	8.177	8	7.263	

USYRUのスタンダード・ハル(IMS)をもつ艇種

RUN : 1/09/86 17 : 07

IMS Standard Hulls

Alacrity 40	C & C 50	Fugi 40	New York 40	Santane 30
Alberg 35	Cal 229	Gulfstar 40	New York 48	Santana 30/30
Alberg 37	Cal 29	Gulfstar 41	Niagara 35	Santana 35
Albin Nimbus 42	Cal 230	Gulfstar 44	Nicholson Half Ton	Santana 39
Albin Stratus	Cal 239	Gulfstar 50	Nicholson 39	Scampi
Alden Challenger	Cal 330	Hatteras 65	Nicholson 40	Screamer 12M
Alden 44	Cal 331	Hawkfarm 28	Nonsuch 30	Seidelmann 30
Alden 54	Cal 36	Hinckley 35	Nordic 44	Seguin 40
Allied 30	Cal 39	Hinckley 38	Norlin 34	Seguin 44
Aloa 34	Cal 40	Hinckley 41	Norlin 37	Shannon 38
Apache 37	Cal 44	Hinckley 43	North American 40	Shannon 50
Aphrodite 101	Cal 2-46	Hinckley SW 42	Northeast 38-2	Show 34
Avance 40	Cal 9.2	Hinckley SW 48	Northeast 39	Show 42
Baba 35	Cambria 44	Hinckley SW 50	O'Day 30	Sigma 41
Baba 40	Cape Dory 33	Heritage 1 Ton	OOD 34	Sirena 38
Baltic 33	Cape Dory 36	Hobie 33	Offshore One	Skye 51
Baltic 35DK	Carter 3/4	Hughes 38	Offshore 41	Soverel 26
Baltic 37	Carter 33	Hunter 30	Offshore 47	Soverel 30
Baltic 38DP	Carter 39	Hunter 34	Olson 30	Soverel 33
Baltic 39	Carter 40	Hunter 40	Olson 40	Soverel 48
Baltic 39CB	Catalina 27	Hunter 54	Ohlson 38	Standfast 36
Baltic 42CB	Catalina 30	Intrepid 35	Ohlson 38A	Standfast 40
Baltic 42DP	Catalina 36	Invicta MK I	Orca 43	Swede 55
Baltic 46	Catalina 38	Invicta 37	Orion 35	Swan 36
Baltic 51	Chaser 33	Irwin 30C	Owens 40	Swan 37
Bayfield 40	Chance 32	Irwin 33	Oyster 43	Swan 38
BB 10	Chance 36	Irwin 34K	Paceship PY 26	Swan 39
Beneteau 32	Chance 37	Irwin 37	Palmer Johnson 30	Swan 391
Beneteau 345	Cherubini 44	Irwin 39	Palmer Johnson 34	Swan 40
Beneteau 35	Cheoy Lee 41	Irwin 46 CB (Ketch)	Passport 40	Swan 41
Beneteau 38	Commanche 42	Irwin 52	Pearson 10M	Swan 411
Beneteau 38(shoal)	Constellation	Islander 36	Pearson 30	Swan 42
Beneteau 42	Columbia 43	Islander 37	Pearson 31	Swan 43T
Beneteau 42(IK)	Columbia 43K	Islander 40	Pearson 32	Swan 431
Beneteau 42(shoal)	Columbia 45	Islander 44	Pearson 33	Swan 44
Beneteau 456	Columbia 50	J-24	Pearson 34	Swan 441
Beneteau 1st class ten	Concordia 40	J-29	Pearson 34 CB	Swan 47
Beneteau One Ton	Concordia 41	J-30	Pearson 35	Swan 48
Bermuda 40	Contessa 33	J-35	Pearson 36	Swan 51 CB
Bianca 414	Contessa 35	J-36	Pearson 362	Swan 57
Black Watch 37	Crusader 40	J-41	Pearson 362 CB	Swan 57 CB
Block Island 40	CS 33	Jeaneau 37	Pearson 37	Swan 65
Bowman 36	CS 36 DK	Jonmeri 40	Pearson 386	Tanton 43
Bristol 35.5 CB	CS 36 (shoal)	Kaiser Gale Force	Pearson 39	Tartan 10
Bristol 40	CSY 37	Kalisk 33	Pearson 40	Tartan 30, 30A
Bristol 40 CB	Dawn 48	Kirby 30	Pearson 424	Tartan 30B, 30C
Bristol 41.1	DB I	Kiwi 40	Pearson 43	Tartan 30D
Bristol 45.5	Dickerson 37	Knutsen 35	Pearson 53	Tartan 33 (Scheel)
Bounty 40	Dickerson 50	Lafitte 44	Pearson Flyer	Tartan 34
C & C 24	Downeaster 38	Little Harbor 36	Pearson Vanguard	Tartan 37 MK II
C & C 25	E O 36	Little Harbor 38	Peterson 34	Tartan 38
C & C 27 (1970-73)	Endeavor 40	Little Harbor 44	Peterson 37	Tartan 40 CB
C & C 29	Endeavor 43	Lord Nelson 41	Peterson 44	Tartan 41 DK
C & C 30	Ericson 232	Luders 27	Pilot 35 (Hinckley 35)	Tartan 41 std kl
C & C 32	Ericson 33(hull #0-14)	Luders 36	Plas Trend 32	Tartan 42(Scheel)
C & C 33	Ericson 33(hull #15+)	Luders 44	Pretorian 35	Tartan 44
C & C 332	Ericson 34	Mac Gregor 65	Rafiki 37	Tartan 46
C & C 34	Ericson 35 MK II	Mariner 36	Ranger 30	Tayana 37
C & C 34 CB	Ericson 36	Mariner 40	Ranger 32	Tayana 42
C & C 35	Ericson 37	Mason 43	Ranger 33	Tayana 55 CB
C & C 35 Mk II	Ericson 38	Mercer 44	Ranger 37	Trintella 45
C & C 353	Ericson 39	Metalmast 30	Redline 41	Valiant 40(hull #0-236)
C & C 36	Evelyn 26	Mistral 33	Rhodes 27	Valiant 40(hull #237+)
C & C 36 CB	Evelyn 32	Morgan 33T	Rhodes Reliant 41	Valiant 47
C & C 37	Evelyn 42	Morgan 36T	Rhodes 41	Viking 33
C & C 37A	Express 37	Morgan 365, 364, 366	S2 7.9	Vixen 34
C & C Landfall 38	F-3	Morgan 38	S2 8.5	Walstead 42
C & C 38 (hull #0-112)	F-36	Morgan 38-2	S2 9.1	Walters 32
C & C 382 (hull #113+)	F & C 44	Morgan 41	S2 10.3	Whitby 42
C & C 39	Farr 37	Morgan 41 CB	Saber 34	Whitby 45
C & C 402 std kl	Farr 44	Morgan 42	Saber 36	X102
C & C 402 DK	Fastnet 45	Morgan 45 CB	Saber 38	Yamaha 36
C & C 402 CB	Fast Passage 39	Newport 29	San Juan 30	Yankee 30
C & C 41	Freedom 40	Newport 30	San Juan 34	Yankee 38
C & C 42	Freedom 44	Newport 41	Santa Cruz 33	
C & C 48	Freedom 44 CB	New York 32	Santa Cruz 40	
C & C Landfall 48	Freyja 39	New York 36	Santana 228	

This is a continually updated list and is current as of the Run Date printed at the upper left.

Please contact the USYRU offshore office if you do not find the model you are looking for ; it may have been added.

USYRU, BOX 209, NEWPORT, RI 02840 TELEPHONE 401-849-5200

マシン計測・ワーク・シート

APPENDIX 1.

SAIL No.:	DATE:	PLACE:	MEASURERS:
YACHT:	CLASS:		
HULL DATE:			

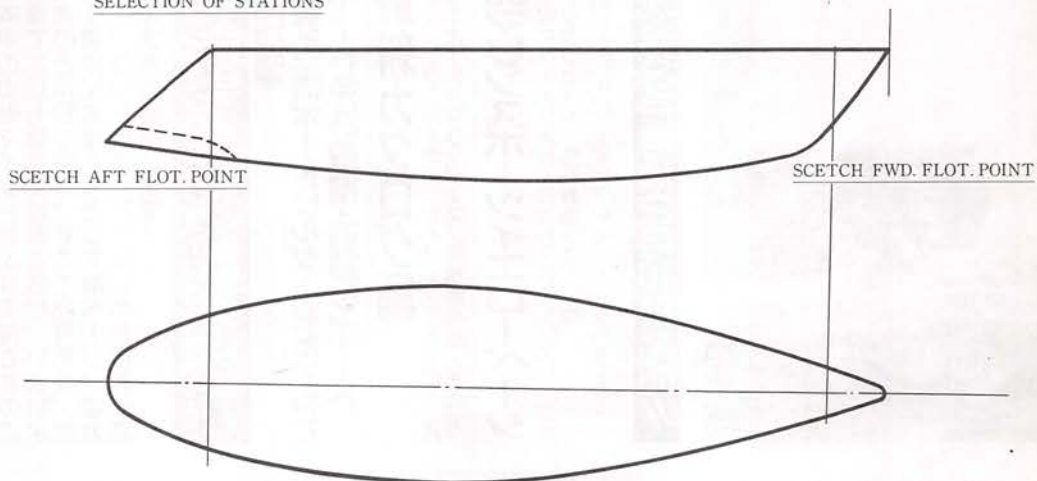
FIRST STATION

1. LOA	:
2. SFJ	:
3. SFB	:
4. FND. BOB→LOA:	
BASE LINE	STB. PORT
5. TRANS. F:	
6. TRANS A:	
7. LONG F:	
8. LONG A:	
9. W.L.WEIGHT:	
10. B.L.LENGTH:	
11. B.L.TENSION:	
12. B.L.WEIGHT:	

STB.	PORT
B:	B:
A:	A:
4.:	4.:
7.:	7.:
C:	C:
8.:	8.:
BASE LINE BELOW W.LEVEL:	BASE LINE BELOW W.LEVEL:
W.L. ABOVE W.LEVEL:	W.L. ABOVE W.LEVEL:
9.:	9.:

No. of file:	Start at TAPE CNT.:

SELECTION OF STATIONS



1988 KENWOOD CUP 案内

(Official Notice and Conditions of Regatta 抜粋)

日程

7月30日第1 オーシャントライアングルレース 27マイル
 7月31日第2 オーシャントライアングルレース 27マイル
 8月1日中距離 モロカイレース 150マイル
 8月4日第3 オーシャントライアングルレース 27マイル
 8月7日長距離 州一周レース 725マイル
 8月13日表彰式

参加資格

IOR レーティング30.0~70.0 ft

ORC 特別規定カテゴリーⅡ (一部改正あり)

(詳しくは Notice 参照のこと)

申込締切 7月1日

問い合わせ先

ROYAL HAWAIIAN OCEAN RACING CLUB
 P. O. Box 88648 HONOLULU HAWAII 96830

Phone : (808)941-1273

Fax : (808)946-9179

TLX(RCA) : (723)8813 RHORC HR

(注) NORC より

○レガッタ期間中有効なレーティング証書を7月15日
 12時以前に RHORC に届けなければなりません。
 改造・調整のための再計測や新艇建造で新規計測を
 される方は十分注意して余裕をもって計画して下さい。

○参加を予定されている艇の方は、NORC へ御一報
 下さい。

ヨットینگ

Yachting

SAIL & POWER GRAPHIC MAGAZINE

ヨット&ボートの
 本格派月刊誌
2月号

オールグラビア&オフセット
 A4変型 特価900円



次号6月号は2月10日発売!!

88マリンスポーツイェローページ
 全国マリナリスト/ヨットスクールリスト/ヨッ
 トクラブガイド/免許教室リスト/他
 《創刊1周年記念豪華プレゼント》もあります!

最新カタログ編
 セーリングクルーザー/セーリングテイニング/ハ
 ワーボート/マリングッズ/各種機装品/その他
 世界の流ボートビルダーをたずねて
 ボート免許取得・追跡レポート

特別企画

『ヨットینگ』2月号(1月9日発売)は
 『1988マリンスポーツ最新カタログ』号!

日本中の海遊マインドあふれる皆さまのご
 支援で本誌も確実に成長を遂げ、いよいよ
 躍進の2年目に突入。そこで2月号は、創
 刊1周年記念特大号として増ページ、増カ
 ラー、ヨット&ボートをはじめ各種最新海
 遊ギアを大特集します!

〒141 東京都品川区東五反田3-6-18

立風書房

TEL447-1191 振替 東京5-74493

国際VHF免許・運用始まる!

通信委員会

NORC 会員の皆さんが外国のヨットクラブのレースで SSB 短波無線通信以上に有効に運用され、見聞きしている念願の国際マリン VHF 無線通信が NORC 会員艇に免許があり、運用が出来る様になりました。無線機器、アンテナなど機材の開発、免許申請、工事無線検査など諸問題を、テストケースとして東海支部、関東支部の有志オーナー皆様のご協力をいただき、東海水域〈ビンド7〉に続いて関東水域でも〈月光五世〉〈織姫〉〈ふじ3世〉など有力レース艇に昨年12月25日付けで免許があり、運用が始まりました。引き続き予備免許中の艇や搭載計画中の艇もかなりあります。NORC 会員艇が免許運用出来る周波数・チャンネルは、次のようになっています。

国際 VHF 周波数帯の内13波(156.025～157.425 MHz)

- Ch 6 船間通信波 主に大型商船が運用
- Ch 8 船間通信波 会員艇相互間に運用
- Ch12 船・陸間波 海上保安庁、ポートラジ
- Ch14 船・陸間波 オなどの港湾通信用
- Ch16 全世界共通の遭難・安全通信及び呼出応答波
- Ch23～28(6波) NTT 電話回線通信波、サービス水域一大阪湾、相模湾、東京湾のみ。

Ch68 } 外国では、主にヨット用に使用されてお
Ch72 } り、Ch72は ORC 規定のチャンネルです。

ただし、Ch68、Ch72は、「船検」に国際航海「有り」の艇にのみ免許される。

免許最大空中線電力 固定機24Wハンディ機4W

免許対象艇 NORC 特別会員艇

運用最低資格 特殊無線技士「甲」。Ch68、72を運用する艇は、特殊無線技士「国際」級の資格が必要です。SSB 無線運用資格の電話級無線通信士では Ch68、72は今のところ運用できません。

無線機材は、郵政省型式認定品の最新ハイテク機オートスキャン、セレクトスキャン、優先チャンネル設定機能など搭載の24Wデスクトップ型機、4Wハンディ型機を会員特別価格で頒布の予定です。

アンテナも、ヨット用に開発した、通達距離が良く打上げ角度の低いマストトップ、スターン取付け型を頒布提供致します。(電波法の規定により利得の有るアンテナは、設置出来ません)

機器カタログは、支部、本部事務局にお申し込み下さい。

免許申請、設置、費用など2月号に発表予定です。

限界を知る

後藤 隆三

巡視船に乗船していると、一年に一度位は後々まで語り継がれるような荒天に遭遇します。荒天下での海難救助となると大変です。救助する方も、される方も必死で荒れ狂う海と闘います。大自然と人間との命がけの大勝負です。

勝負といえば競馬、競輪、マージャン、パチンコ等いろいろあります。いずれも射倖心をそそり、大勢の善良な人々が勝負にうつつをぬかしております。勝負の結果は悲喜こもごもといったところでしょうか。負けて給料をすってしまったとか、質屋に通った話はよく耳にしますが、命まで無くすることはありません。

裸と裸がぶつかり合う相撲の社会。番付が1枚違えば虫ケラ同然などといわれます。まことに酷しい世界ですが、7勝7負の力士が千秋楽で、必ず勝ち越しを決める結果を見ると、何か釈然としないものを感じます。

何といっても、一番酷しいのは自然との勝負です。

自然との勝負が他の勝負と異なるのは、自然は絶対であり常に正しいということです。従って、海との格闘は人間にとってまことに苛酷なものとなります。海は挑戦者の力量を厳しく評価します。この闘いに敗れば悲惨な結果が待っていることはいうまでもありません。このため人間は、決して実力以上の挑戦をしてはならないわけであり、自分自身の力量、言いかえれば自分の力の限界をよく知っておく必要があります。

強風下、海難救助に急行することがよくあります。一刻も早い現場到着が要求されるわけですが、急ぐあまりその当時の海上模様に適さない、過大な速力を出すと、自分の船をいためてしまうことがあります。その天候に対する速力の限界があるのです。その速力の決定は船長の知識と経験、すなわち腕によるわけです。遭難現場に着いて、救命艇を使用するかゴムボートにするか。何ミリの曳航索を相手船にどうとるか等々。数え挙げればきりがありませんが、すべて「限界」を熟知して作業を進めなくてはなりません。

自然界とつき合う上で、経験がものをいう場合がたくさんあります。これは経験によって限界を知るケースが多いからです。力の限界は試練に直面して、一つ一つこの壁を乗り越えることによって体得するしかありません。乗り越えることが出来る壁の高さを、1センチでも1ミリでも高くするには自然の胸を借りて、厳しい訓練を繰り返す以外にはないのであります。

自然とは、海とはかくも厳しいものです。でも、もう一つの顔があります。一日の終焉を告げる厳かな落日、そして夜空にまたたく無数の星。街では観ることが難しかった、ハレー彗星も、アンドロメダ星雲も海上では双眼鏡ではっきり観ることができるのです。また、荒天を乗り切ったあなたの艇のマストにセントエルモの灯が出現するかも知れないのです。海は、本当にその厳しさを知る者にのみ、やさしい側面をみせるのだと思います。

〔福岡海上保安部勤務〕

「限界を知る」御紹介

玄海支部 片倉静江

去年、11月29日(日)に開かれた1987年度玄海支部ポイントレース表彰式兼忘年会に、地元の福岡海上保安部、後藤隆三部長にもおいで頂きました。海保の部長の御出席は支部発足以来初めてではなかったでしょうか。その1ヵ月前に一度お会いする機会を得ましたが、ユーモアのセンス溢れる楽しい(失礼)方で、部長といういかめしい肩書が全然感じられない方です。(まわりにいません? 制服があまり似合わないタイプの方が?) もし私服をお召しになっていれば、さしづめ会社役員タイプ、または、例の詰襟の服を着て頂くと牧師さん…という感じが第一印象でした。ジョークもボンボン飛び出しますし、道を歩いていても気さくに話しかけられるムードをお持ちです。今〈カラコルム〉に乗っている相馬警・救課長とのコンビは、玄海支部にとってもラッキーでした。

その部長に今月は御登板頂きました。忘年会の御挨拶の最後にも「出来るだけ私共の出番がない様に」とおっしゃいました。巡視艇の立場からと、また自然相手のスポーツ、ヨットマンの私達への言葉として、胸深くしまっておきたいと思います。

マラソンファンの方ならきっと覚えていらっしゃると思いますが、昨年(昭和62年)の福岡国際マラソンが行われた12月6日(日)は、気温は4.5度、強い雨、陸海共、突風強風の大荒れの日でした。丁度その日、玄界灘の沖の島

北方海上で韓国の材木運搬船が横倒しになって沈没する海難事故が発生しています。韓国沿岸警備隊からの要請で、門司と仙崎の海上保安部の巡視艇が大荒れの現場へ出動した旨報じていましたが、救助する側もまさに命がけだなァと思ったのと同時に、「お遊び」の私達は、絶対に巡視艇の出番のない様に気をつけなくてはと決意を新たにしてしました。海保の方々と親しくなればなるほど、その気持が強くなっていくのも不思議ですね。



後藤隆三部長



玄海支部忘年会で挨拶される後藤部長

1987年度 本部・関東支部レース表彰リスト

レース名	初 島 卯 月	第 5 回 小笠原	初 島	第37回 大 島	第10回 関東支部 フリート対抗	第14回 江ノ島・清水	第28回 鳥羽バール	第32回 神子元島	第25回 小瀬代カップ
IOR・JORクラス									
フアースト ホーム 賞		石原杯 兼師寺記念トロフィー 〈FUJI III〉					秋田トロフィー 鳥羽市観光協会長杯 〈ZERO〉	暖流杯 〈織 姫〉	
総 合 賞	オリンピックカップ 〈CONTESSA VIII〉	防衛庁長官杯 東京都知事杯 NORC会長杯 ベストナビゲーター賞 〈FAT CAT〉	初島シルバーカップ 〈FORTY〉	シルバーカップ 〈WILL〉	関東支部長杯 シーボニア ムーランライトチーム 〈HALF TIME〉 〈MATENROW〉 〈BOY〉	駿河湾支部長杯 〈OTSHOSAN〉	運輸大臣賞 神奈川県知事杯 三重県知事賞 三重県議会議長賞 鳥羽商船杯 パールカップ メーブルエスアプリ賞 シーラ杯	神子元島杯 NORC神子元トロフィー 〈OTSHOSAN〉	小瀬代カップ 〈CAETLA〉
ク ラ ス 賞	A グループ K7カップ 〈CONTESSA VIII〉 B グループ 中戸杯 〈CROW〉	クラスⅠ～Ⅱ ローデムトロフィー 〈FAT CAT〉 クラスⅢ 小笠原村長杯 〈DHARMA〉 クラスⅣ～Ⅴ 小笠原マリーナ杯 〈かぐや姫〉	A グループ 初島杯 〈FORTY〉 B グループ 初島杯 〈NOVA 40〉	A グループ どんかめ賞 〈WILL〉 B グループ 横山杯 〈NOVA 40〉	ポイントゲッター賞 ①〈WILL〉 ②〈SLEEPER〉 ③〈FORTY〉	クラスⅠ～Ⅲ 静岡県知事杯 〈青海波〉 クラスⅤ 藤沢市長杯 〈OTSHOSAN〉 静岡県所属艇1位 静岡新聞社杯 〈てんと虫〉	クラスⅠ～Ⅱ 鳥羽市長杯 〈CARINO〉 クラスⅢ～Ⅳ 三浦市長杯 〈BOOMERANG〉 クラスⅤ パレリーナナカップ 〈HORIZON 5〉 CRクラス ①とらばーゆ賞 NORC楯 〈ANGLER III〉 ②NORC楯 ③DEKUBRIGHT III ④NORC楯 〈SEADLER V〉	A グループ インディペンデンスカップ 〈海太郎〉 B グループ ジュニーイカップ 〈OTSHOSAN〉	CRクラス NORC楯 〈摩利支天〉

1988年度 本部レース・スケジュール(案)

昭和62年11月18日

レース名	第9回 沖縄ー 東京レース	小笠原諸島本土復帰 20周年記念 記念特別レース	第15回 江の島・ 清水レース	第29回 鳥羽ーパールレース	ミキモトジャパンカッ プ オフショアシリーズ1988	第18回 八丈島レース
コース	沖縄 (宜野湾ハーバー 沖) ↓ 小笠原 (二見港内) (820哩)	東京港 東京港 東京港 ↓ ↓ 小笠原 大島 (二見港内)(波浮港) (550哩) (60哩)	江の島 ↓ 清水 (95哩)	(Aコース) (Bコース) 鳥羽 鳥羽 ↓ ↓ 神津島 ↓ ↓(反時計) 小網代 小網代 (180哩) (150哩)	第1レース インショア (27哩) 第2レース インショア (27哩) 第3レース (150哩) S. オフショア (含むオープン) 第4レース インショア (27哩) 第5レース (240哩) L. オフショア (含むオープン)	小網代 ↓ 八丈島 (反時計) ↓ 小網代 (290哩)
賞	総理大臣杯 運輸大臣杯 NORC会長杯 沖縄県知事杯 海上保安長杯 沖縄県開発公社杯 朝日新聞社杯 沖縄タイムス杯 他	総理大臣杯 記念特別 記念品 東京都 賞 他 他 知事杯 小笠原 村長杯 薬師寺記念トロフィー 他	駿河湾支部長杯 静岡県知事杯 清水市長杯 藤沢市長杯 他	パールカップ Bコース 運輸大臣杯 別途 神奈川県知事杯 に賞を 三重県知事杯 定める メーブル・エスプリ杯 シーラ杯 鳥羽商船杯 秋田トロフィー 他	ミキモトカップ コラムカップ ヤマハカップ テレビ朝日カップ ボヤヤカップ 熱海市長杯、 熱海市議会議長杯、 熱海商工会議所会頭杯 他	関谷杯 山口杯 シレナ杯 サンバード トロフィ 他
スタート	4/29(金) 12:00	4/29(金) 11:00	7/9(土) 12:00	7/22(金) 12:00	10/6・7(金) インスペクション 8(土)第1レース 10:00 9(日)第2レース 10:00 10(月)第3レース 10:00 12(金)予備日 13(土)第4レース 10:00 14(日)第5レース 10:00 22(土)表彰式(東京)	11/3(木) 11:00
申込締切	4/8(金)	4/8(金) 4/22(金)	6/24(金)	6/24(金)	9/30(金)	10/28(金)
出艇申告 艇長会議	4/28(木) (沖縄)	4/28(木) 4/28(木) (東京) (東京)	7/8(金) 18:30 NORC本部	7/21(木) (鳥羽・)	10/7(金) (熱海・)	11/3(木) 08:00 ()
参加資格	IOR /JOR、 クルーザーR I~V ORC-1、NORC-A 沖縄レース特別 規定 無線機(2MHz~) 必要備品	IOR /JOR、 クルーザーR I~V ORC-1、NORC-A ORC-3、 小笠原レース NORC-B 特別規則 別途に定め 無線機 る安全規則 (2MHz~) 必要備品	IOR /JOR I~VI ORC-3、 NORC-B	IOR/JOR I~VI ORC-3、 NORC-B	IOR I~V ORC-3、NORC-B シリーズ特別規則 オープンレースはJOR も可	IOR/JOR I~V ORC-2、 NORC-B レース 特別規定 無線機 (2MHz~) 必要備品
その他の 事項	連絡会議 4/15(金) 18:30 NORC本部	連絡会議 4/15(金) 18:30 NORC本部		連絡会議 7/8(金) 19:00 NORC本部	連絡会議 / () 銀座・ ミキモト本社会議室	

1988年 支部レース・スケジュール

沖縄支部

- 2月(未定日) 第6回ルカン礁レース
4月(未定日) 第12回那覇・座間味レース
6月(未定日) 第2回ブルーオシャンヨットレース
10月(未定日) 第5回沖縄本島一周レース

玄海支部

- 3月13日(日) ポイントレース
4月10日(日) ポイントレース
5月3(火)~4日(水) アラウンド対島レース
6月12日(日) ポイントレース
7月10日(日) ポイントレース
9月11日(日) ポイントレース
10月9(日)~10日(月) 大原杯レース
11月13日(日) ポイントレース

西内海支部

3月27日(日) 春のランデブー伊予スプリングカップ
 4月10(日)～11日(月) 第3回南瀬戸内海ブルーマリン
 フェスティバル
 〃 第1回ポイントレース
 4月13日(水) 第1回ミーティング
 5月7(土)～8日(日) 第21回別府レース
 5月22日(日) 第2回ポイントレース
 5月24日(火) 第2回ミーティング
 5月29日(日) 第14回市民ヨット試乗会
 5月29日(日) 瀬戸内海横断レース
 6月11(土)～12日(日) 第3回ポイントレース
 6月14日(火) 第3回ミーティング
 〃 諏訪灘ヨットレース
 7月23(土)～24日(日) REL ミットサマーフェスティ
 バル
 8月28日(日) 第14回招待クルージング
 〃 河上徹太郎記念ヨットレース
 〃 グリーンカップ
 9月11日(日) 第4回ポイントレース
 9月13日(火) 第4回ミーティング
 10月8(土)～9日(日) 第5回ポイントレース
 10月11日(火) 第5回ミーティング
 11月6日(日) 第6回ポイントレース
 11月8日(火) 第6回ミーティング
 11月19(土)～20日(日) 第15回瀬戸内海汽船カップレース
 12月4日(日) 1988年納会

駿河湾支部

1月1日(金) 新春駿河湾横断レース
 1月10日(日) ウィンターシリーズ第1戦
 2月14日(日) ウィンターシリーズ第2戦
 3月13日(日) ウィンターシリーズ第3戦
 4月10日(日) スプリングシリーズ第1戦
 5月3(火)～4日(水) 春のフリート対抗レース
 5月8日(日) スプリングシリーズ第2戦
 5月22日(日) 海人祭
 6月12日(日) スプリングシリーズ第3戦
 9月11日(日) オータムシリーズ第1戦
 10月9日(日) オータムシリーズ第2戦
 10月9(日)～10日(月) 秋のフリート対抗レース
 11月27日(日) オータムシリーズ第3戦

東海支部

4月10日(日) 春の野島レース
 5月1日(日) 五ヶ所湾合同レース
 5月3(火)～5日(木) スプリングシリーズレース
 5月22日(日) 伊勢湾合同レース
 6月5日(日) エリカ記念三河湾合同レース
 9月4日(日) 津合同レース
 10月8(土) 秋の野島レース
 10月9日(日) 東海フェスティバル合同レース
 未定 オータムシリーズレース
 (9/23, 24, 25または11/20, 23, 26, 27)

関東支部

レース名	初島卯月レース	初島レース	第11回関東支部 フリート対抗レース	第38回 大島レース	第33回 神子元島レース	第26回小網代 カップレース
コース	小網代(48哩) ↓ 初島(反) ↓ 小網代	小網代(48哩) ↓ 初島(反) ↓ 小網代	第1R 三角(20哩) 第2R S.O(48哩) 第3R 三角(20哩) 第4R 三角(20哩) 第5R L.O(85哩)	葉山(85哩) 初島(反) 大島(反) 葉山	江の島(105哩) ↓ 神子元島(反) ↓ 江の島	小網代(65哩) ↓ 大島(時) ↓ 小網代
スタート	4/2(土) 11:00	5/14(土) 17:00	第1R 5/14(土) 第2R 5/14(土) 第3R 5/21(土) 第4R 5/22(日) 第5R 5/28(土)	5/28(土) 11:00	10/29(土) 12:00	11/19(土) 11:00
申込締切	3/18(金)	4/28(金)	4/28(金)	5/13(金)	10/14(金)	11/4(金)
出艇申告 および 艇長会議	4/2(土) 07:30 シーボニア	5/14(土) 15:00 シーボニア	連絡会 4/25(火) 出艇申告 5/14(土) 艇長会議 5/14(土)	5/27(金) 18:30 NORC本部	10/28(金) 18:30 NORC本部	11/19(土) 07:30 シーボニア
参加資格	JORI～Ⅶ ORC-4 NORC-C クルーザーR	JORI～Ⅶ ORC-4 NORC-C クルーザーR	JORI～Ⅶ ORC-3 NORC-B	JORI～Ⅶ ORC-4 NORC-C クルーザーR	JORI～Ⅶ ORC-4 NORC-C クルーザーR	JORI～Ⅶ ORC-4 NORC-C クルーザーR
担 当	諸 磯	シーボニア	関 東 支 部	葉 山	江 の 島	小 網 代

内海支部

レース・行事名	主 催	場 所・海 域	開催月日	後 援
関西ビッグボート 選手権レース	支 部	大 阪 湾	3/12.13 19.20.21	関西ヨットクラブ
1988ミドルボート 全日本選手権	ミドルボートクラブ	大 阪 湾		支 部
第13回舵杯レース	支 部 舵 社		4/17または 4/24	
第14回 オレンジカップレース	サントピア ヨットクラブ	大 阪 湾	4/29～5/1	支 部
ラ ン デ ー	支 部			
大阪湾横断レース	須磨フリート	須磨一淡輪	5/29	泉南フリート 淡輪ヨットクラブ
21世紀カップ淡輪レース	支部/関西ヨット協会 大阪府マリーナ協会	淡 輪 沖	7/31	大阪21世紀協会 淡輪ヨットクラブ
家島群島一周レース	姫路ヨット協会	家 島 群 島	7/30.31	支 部
阿波踊レース	徳島ヨットクラブ	徳島港沖～ 舟磯灯台～徳島港沖	8/14	支 部
マスカットレース	岡山フリート	玉 島 港 外	8/28	玉島ヨットクラブ
フリート対抗レース	支 部	大 阪 湾	9/23～25	西宮フリート
瀬戸大橋記念レース	同レース実行委	瀬戸大橋付近	4/3または10	
牛窓町カップレース	牛 窓 町	牛窓港外～播磨灘 北西部～牛窓港外	9/25	岡山フリート
小豆島オータムレガッタ	小豆島・土庄 ヨットレース実行委	小豆島・池田湾	10/23	土庄町支部 クルージングクラブ琴塚
小豆島レース	支 部		10/29.30	クルージングクラブ 琴塚
播磨灘レース	姫路ヨット協会	的形沖～播磨灘 中部～的形沖	10/16	支 部
第31回紀伊水道レース	支 部	洲本沖～四国 牟岐大島～洲本沖	10/9.10	サントピア ヨットクラブ
徳島レース	徳島フリート		8/13	
瀬戸大橋記念レース	同 上	鳴 門～瀬 戸	5/3.4	

近畿北陸支部

月	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11
日	17	14	13	17. 24	22	12	10	11	8. 9. 10	13. 20
レース名	ポイント レース 1回戦	ポイント レース 2. 3回戦	第3回 チャンピオン カップレース	第2回 関西ミニトン 選手権大会	サムタイム ヨット フェスティバル	ポイント レース 1. 2回戦	ポイント レース 3. 4回戦	ポイント レース 5. 6回戦	第10回 ミニトン 選手権大会	琵琶湖チャンピ オンカップシリーズ (3レース)
ホストマリーナ	L.W.Y.C	L.W.Y.C	L.W.Y.C	L.W.Y.C		レークウエスト ヨットクラブ	L.W.Y.C	L.W.Y.C	L.W.Y.C	L.W.Y.C
スタート	12:00	10:30	10:30	別 紙 実 施 要 項 に よ る	10:00	10:30	10:30	10:30	別 紙 実 施 要 項 に よ る	10:30
タイムリミット	120分	120分	150分		14:00	120分	120分	120分		120分
賞	総合1位	総合1位	各クラス1位			総合1位	総合1位	総合1位		
申込締切	1 / 17 10:00	2 / 14 08:50	3 / 7 L.W.Y.C			6 / 12 08:50	7 / 10 08:50	9 / 11 08:50		
艇長会議	10:10	09:00	——			09:00	09:00	09:00		
出艇料	¥5,000	¥5,000	¥6,000			¥5,000	¥5,000	¥5,000		¥10,000 日/¥5,000
パーティ	ニューイヤ ーパーティ	——	アフター パーティ			——	——	アフター パーティ		11 / 20 アフターパーティ
備 考	春季シリーズ		1日2レース		夏季シリーズ					
	年間最高得点艇 (Best 7 レース)									

津軽海峡支部

- 5月22日(日) 第6回セイルカップ第1レース
 5月29日(日) 第6回セイルカップ第2レース
 6月12日(日) 第19回穴持レース
 6月24(金)~26日(日) 第6回松前小島回航レース
 7月3日(日) シナラ杯ヨットレース
 8月13(土)~14日(日) 第8回函館湾オープンヨットレース
 8月28日(日) ダブルハンドヨットレース
 9月10(土)~12日(日) 津軽海峡横断ヨットレース
 10月9(日)~10日(月) 第11回津軽海峡横断ヨットレース

北海道支部

- 7月17日(日) 石狩湾レース(第1義)
 8月7日(日) 第4回オロロンラインレース
 9月18日(日) 石狩湾レース(第2義)
 10月9日(日) 石狩湾レース(第3義)

書、結果報告書をお送り致します。

★申込方法 参加申込書の郵送による申込と、参加料の事前の振込をお願いします。

☆参加料 1回 1艇 6,000円

(ただし3回分以上まとめて払う場合は、1回につき1,000円の割引になります)

☆振込先 住友銀行 有楽町支店
 当座 No. 270006
 口座名 (株)セゾン

振込は、艇名とお名前をお願いします。

★申込・連絡先 S.T.C. 事務局

(株)有楽町西武 3F マリンスポーツデスク内
 〒100 千代田区有楽町2-5-1
 ☎03(286)5412 直通

S. T. C. 1988年度日程一覧表

	日 程		日 程
第1回	1月24日(日)	第7回	7月3日(日)
第2回	2月21日(日)	第8回	8月21日(日)
第3回	3月13日(日)	第9回	10月16日(日)
第4回	4月17日(日)	第10回	11月13日(日)
第5回	5月15日(日)	第11回	12月11日(日)
第6回	6月12日(日)	パーティー	12月中旬

★参加方法(1) S.T.C.に参加するには、特別な条件はありません。IORのレーティングを持たない艇もご参加下さい。S.T.C.の定めたヤードスティック No. を用います。毎回のレースの形態については、帆走指示書に従って下さい。

(2) 参加ご希望の方は、S.T.C.事務局へお申し出下さい。毎回、帆走指示書、申込

お詫びと訂正

オフショア12月号の表誌及び2, 4, 5ページの写真は、添畑薫氏撮影でありましたのでここにおわびを申し上げるとともに訂正させていただきます。

——編集委員会——



「生きるための海-海のサバイバル」

ゼネラル海運(株)顧問

元海上保安庁首席監察官 野間寅美 著

苛酷な海の遭難に生と死はつきものである。なぜ遭難者はその明と暗に分かれるのだろうか。海上保安庁で30数年海の遭難を見続けてきた著者が、その謎解きに迫った。

著者は、まず運命の神が差をつけることを知った。精神力は当然のこと、知恵や機転が生への道を開けてくれることにも気づいた。逆に還らざる人びとの力の足りなかったことも見た。地に堕ちた海の道義も人びとを死に追いやることも知った。これらの数々の話を前半に集めている。

ついで後半に、海のサバイバル法を説いている。といっても単なる指導書的な項目の羅列ではない。著者の体験や先人の教えを織り混ぜて、読み物風に構成している。苦しいときは神をも頼めといい、海水は水で

はないなどと教えている。

とかく陰惨になりがちな遭難の話であるが、本書には暗さがない。むしろ、希望を見出させるような明るい筆致がある。また、全篇を通じてその根底には著者のヒューマニズムがひそんでいることもうかがえる。

本書は、海を相手の人びとだけでなく、いわゆる陸の人びとにとっても、生きることは何かを教えてくれる。

なお、本書は、(社)日本図書館協会の選定図書に選ばれている。

四/六判・240頁・・定価1500円・送料300円

発行所=(株)成山堂書店 ☎160 東京都新宿区南元町4-51 成山堂ビル

TEL 03(357)5861(代)

FAX 03(357)5867

1987年OFFSHORE

さ く び き

NO.142~NO.153

表紙 1月—第3回ジャパン・グァムレース、完全優勝の〈摩利支天〉と5位の〈かもめとぶ〉／2月—The A. Cup 奪回に成功し、観衆の祝福に答える〈Stars and Stripes〉のデニス・コナー氏：ロイター・サン／3月—〈フォーティ〉ミキモト・ジャパンカップ・オフショアシリーズ1986にて：添畑薫／4月—YAMAHA OSAKA CUP '87、左がレースコミッティーのサンドリンガムヨットクラブ前会長のダグラッセル氏、右は現会長のダンカン氏（於：メルボルン）／5月—〈SDC 波切大王〉：毎日新聞社／6月—撮影：関東支部 広報委員会／7月—クラブレースが盛んな相模湾にて：オーシャンライフ／8月—'87トランスパック参加の〈摩利支天〉：服部一良／9月—7月31日10,59'50"鳥羽パールレース、スタート10秒前：提供毎日新聞社、撮影森顕治／10月—ミキモトジャパンカップ1987スタート：オーシャンライフ／11月—第9回ミニトン全日本選手権大会優勝艇〈ボーラワンダーボーイ〉と〈ツインカム〉：提供舵社、撮影岡本甫／12月—ニッポンカップ1987：添畑薫

理事会・代議会・総会など

第100回理事会議事録 3月P 8
'87年度全国計測委員会報告 3月P 9
第101回理事会議事録 4月P 10
NORC 玄海支部総会 5月P 17
第9回代議員会及び第31回総会議事録 5月P 18
第31回関東支部総会及び第1回関東支部代議員会

議事録 関東支部

第102回理事会議事録 8月P 20
第103回理事会速報 12月P 18

国内レース関連

後期表彰式 第27回鳥羽パールレース 2月P 32
第13回江ノ島 清水レース 2月P 32
第31回神子元島レース 2月P 32

第5回小笠原レーススタート時間変更のお知らせ

帆走委員会 2月P 37

S. T. C. 結果報告（第9回，第10回） 2月P 39
LWYC・NORC・BSCA 合同琵琶湖ウインターレガッタ成績表 3月P 16

S. T. C. 結果報告（第11回，第1回，総合） 3月P 18

S. Y. C.・L. W. Y. C 共催ビワコクラス別チャンピオンカップレース 4月P 21

SSBM スプリングレガッタ 藤島幹部 5月P 13
62年度初島卯月レース成績表 中川敏彦 5月P 15
第12回舵杯ヨットレース報告 内海支部 5月P 20
西宮シリーズ、ビッグボート・ミドルボート成績表

5月P 27

S. T. C. 結果報告（第2回，第3回） 5月P 30

小笠原レース 6月P 5

第37回大島レース速報・成績表 6月P 5

第4回伊東レース報告・成績表 別部尚司 6月P 7

第5回スプリングシリーズレース 成績表 6月P 12

春の野島レース成績表 6月P 15

第1回エリカ記念三河湾合同レース 中村考 6月P 15

成績表 6月P 17

第12回五ヶ所湾合同レース成績表 6月P 18

Some Time YACHT FESTIVAL BIWAKO 成績表

6月P 22

第1回 BIWAKO スモールヨットレース成績表

6月P 26

ATAMI KETCH MEETING 稲葉文則 6月P 28

第13回オレンジカップレース成績表 6月P 32

第6回オレンジフェスティバルレース成績表 6月P 33

関東支部サムタイムヨットレース成績表 6月P 34

関東支部フリート対抗チームレース成績表 7月P 6

第23回大阪湾横断レース成績表 7月P 15

第37回大島レース成績表 7月P 16

近畿北陸支部ポイントレース5，6回戦 7月P 17

第28回パールレースによせて 加藤蔵男 8月P 12

初島卯月レース成績表 8月P 30

第14回江ノ島・清水レース成績表 8月P 31

近畿北陸支部ポイントレース7，8回戦 8月P 31

石原裕次郎メモリアルレース成績表 9月P 19

家島レース報告 内海支部 9月P 22

第28回鳥羽パールレース成績表の訂正とおわび

10月P 3

第1回ミニトン関西選手権大会成績表 10月P 11

ミキモトジャパンカップオフショアシリーズ1987

10月P 12

第15回阿波踊りヨットレース成績表 10月P 19

2nd Santa Claus Regatta 10月P 22

第11回マスカットレース結果報告 10月P 25

第4回日本海ヨットレース 10月P 26

第2回ビワコ・スモール・ヨットレース 10月P 27

ミキモトジャパンカップオフショアシリーズ1987受賞

リスト 11月P 8

第9回ミニトン全日本選手権成績表 11月P 14

第32回神子元島レース成績表 11月P 24

1987年1/8 TOM 全日本選手権レース成績表 11月P 25

近畿北陸支部ポイントレース（1回戦） 11月P 32

'87J24ボロカップ第7回全日本選手権成績表 12月P 9

近畿北陸支部ポイントレース 12月P 10

第25回小網代カップレース成績表 12月P 14

紀伊水道レース	12月P18		4月P20
NORC 玄海支部レース	12月P18	1987年度関東支部レーススケジュール	4月P20
第3回ビワコスモールヨットレース	12月P18	クルーザーレーティング沿岸レース日程表	4月P21
国際レース関連		第13回オレンジカップレース	4月P22
コンチネンタルカップ第3回ジャパン・グアムヨットレース	1月P6	第6回オレンジフェスティバルレース	4月P22
〈速報〉デニスコナー アメリカズカップ奪回		Some Time YACHT FESTIVAL BIWAKO	
	2月P2		5月P16
YAMAHA OSAKA CUP メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース1987	3月21日スタート2月P9	第7回黒船カップオープンヨットレース	5月P17
第3回ジャパングアムレース	クルーリスト2月P28	1987 NORC 東海支部主催レース日程表	5月P26
〃	航跡図	外洋ヨットレースフェスティバル 平和の白い帆'87	6月P29
J/24クラス世界選手権大会 日本J/24クラス協会	2月P31		
YAMAHA OSAKA CUP メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース最終エントリーについて	3月P3	コンチネンタルカップ・第4回ジャパングアムヨットレースへのおさそい	清田博 7月P9
速報 YAMAHA OSAKA CUP メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース1987	4月P2	RCC ミッドサマーフェスティバル ひろしまカップ	
メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース1987		宮島ヨットレース	7月P12
レース速報	5月P2	1987年1/8 TOM 全日本選手権レース実施要項	8月P9
メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース1987		石原裕次郎メモリアルヨットレースのお知らせ	8月P17
表彰式	6月P2	ミキモトジャパンカップ1987へのお誘い	8月P19
第八回日韓親善ヨットレース 玄海支部 片倉静江	6月P9	第1回ミニトン関西選手権のお知らせ	8月P25
YAMAHA OSAKA CUP メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース1987 フィニッシュ艇一覧表	6月P39	八丈島レース再開	9月P23
フィニッシュ全艇 航跡図	6月P40	JAPAN BIG BOAT SERIES IN HIROSHIMA	10月P24
メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレースまとめ	7月P2	コンチネンタルカップ第4回ジャパングアムヨットレース締切り迫まる	11月P15
'87トランスパック速報	8月P11	第14回瀬戸内海汽船カップレース	11月P16
アドミラルズカップ'87成績表	9月P8	琵琶湖チャンピオンシリーズのお知らせ	11月P25
三洋証券ニッポンカップ	12月P2	1988 KEN WOOD CUP 案内	11月P33
速報第4回ジャパン・グアムレースエントリー情况	12月P8	シーボニア杯第7回新春相模湾オープンヨットレース	12月P10
レース案内		安全関係	
関西ビッグボート選手権実施案内 内海支部	1月P9	第三管区海上保安本部からのお願い	2月P36
小網代フリートレースのスケジュール	1月P15	射撃訓練海域について	9月P25
1987年本部レース・スケジュール	1月P16	計測・技術関係	
1987年支部レース・スケジュール	1月P16	1987 ORC MACHINE MEASUREMENT 講習会	
1987年J/24クラス九州選手権レース案内	1月P19	報告 計測委員 大橋且典	2月P30
J/24クラス1987年主要レース	2月P31	'87年度全国計測委員会報告	3月P9
第4回平和の白い帆'87日本海レース開催のお知らせ	2月P37	1987年 IOR 変更の主なもの	3月P10
第8回日韓親善ヨットレース	3月P13	NORC 計測委員会より	5月P12
1987年本部レース・スケジュール	3月P15	「イメージコンピューターレーティング」	
第15回記念阿波踊りレース	3月P17	飯塚巧二	8月P25
1987年日本J/24クラスレディース選手権	4月P15	クラスの分類・TCFの算出 etc. に関わるレーティング	
Big Birthday YOKOSUKA 80 東京湾オープンレガッタ	4月P16	グフィートについて	8月P29
サンマリーナカップ・あしか島レース 安岡信一		第一回関東支部 CR メジャラー連絡会	11月P26
		MEASURERS' CONFERENCE 出席報告書	12月P6
		ルール関係	
		1987年 IOR 変更の主なもの	3月P10
		1987 NORC ルール委員会 名簿	4月P17
		各委員会関係	

'87年度全国計測委員会報告	3月P 9	コンチネンタルカップ ジャパンゲームレース	
1987 NORC ルール委員会 名簿	4月P 17	コミッティ報告に代えて	服部一良 2月P 25
神奈川県真鶴町ウォーターフロント計画の基本構想調査研究会委員募集	総務委員会 10月P 2	クルーザーレーティング初年度総括	
法規・免許・制度関係			服部一良 2月P 34
海技免状更新制度スタート!	3月P 11	メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース	
船舶検査等の手数料の改定について	運輸省海上技術安全局 4月P 12	オーナーとクルー大いに語る	5月P 7
今年4月より開始される海技免状更新制度及び更新講習について	6月P 29	〈ミネルパ〉二十年目の進水式	松岡敏 5月P 24
小型船舶操縦士の免許を受けておられる皆様へ	6月P 30	スプリングシリーズを終えて	
海技免状の有効期間の更新及び失効再交付に関する事務取扱要領	6月P 31	帆走委員長 中村考	6月P 14
海技免状の「更新」のご案内	8月P 22	Some Time YACHT FESTIVAL BIWAKO	
無線・通信関係		柏元ちひろ	6月P 18
貴方の「ロランC」受信機は使えない!!		第1回 Biwako スモールヨットレース	
NORC 通信委員会	2月P 24	入江学	6月P 26
無線従事者 電話級通信士 8月期の受験申請について	6月P 48	ATAMI KETCH MEETING	稲葉文則 6月P 28
「電話級」無線通信士・国家試験講習会のお知らせ	10月P 26	メルボルン—大阪の余韻	服部一良 6月P 37
電話級無線通信士国家試験受験講習会のお知らせ	11月P 19	第10回関東支部フリート対抗チームレース	
各水域だより		小沢美弘	7月P 8
「航跡」	玄海支部 片倉静江 2月P 38	〈ニッポンチャレンジ〉の準備進む	7月P 10
コンニチワ!	内海支部事務局 3月P 12	“ニッポンカップ” 準備進む	7月P 11
お元気ですか?	内海支部事務局 4月P 22	ヨットクルージング 中国・長江(揚子江)へのチャレンジ	8月P 2
NORC 玄海支部総会	5月P 17	アドミラルズカップ87	志賀仁郎 9月P 2
第12回舵杯ヨットレース報告	内海支部 5月P 20	第28回鳥羽パールレース初陣〈ル・シール〉	奪闘記 服部一良 9月P 13
第八回日韓親善ヨットレース		石原裕次郎さんメモリアルレース顛末記	
	玄海支部 片倉静江 6月P 9	朝河清	9月P 17
第5回スプリングシリーズレース 成績表	6月P 12	三洋証券がニッポンカップ冠スポンサーに	9月P 21
スプリングシリーズを終えて	帆走委員長 中村考	21st Century YAMAHA CUP MBS	
コンニチワ!—小豆島クルージングス波特ー	内海事務局 6月P 27	Family Regatta	鹿島郁夫 9月P 23
安全講習会	玄海支部 片倉静江 7月P 14	第1回ミニトン関西選手権	10月P 8
お元気ですか?	内海支部事務局 7月P 15	裕次郎さんに哀悼をこめて 嵐を呼ぶヨットレース	
お帰りなさい〈貿易風〉!	片倉静江 8月P 19	第15回記念阿波踊りレース	瀬川洗誠 10月P 17
「貿易風」便り	玄海支部 片倉静江 9月P 26	ミキモトジャパンカップオブシュアシリーズ1987	
持つべきものは友	玄海支部 片倉静江 11月P 34	レース運営について	柴田邦敏 11月P 2
第5回大原杯レース	玄海支部 片倉静江 12月P 14	インスペクションについて	林賢之輔 11月P 4
「コンニチワ!」ひな諸島クルージングス波特ー	内海支部事務局 12月P 15	ジュリー・リポート	石井正行 11月P 5
泊地問題		第9回ミニトン全日本選手権大会レポート	
マリンリゾート南基地開発計画は花盛り	平野喜美夫 11月P 21	菅原留意	11月P 9
ルボ・レポート・座談会		ヒロシマカップ宮島ヨットレース	11月P 18
'86ケンウッドカップを終えて 第二弾つづき	1月P 10	マリンリゾート基地開発計画は花盛り	
アメリカズカップを語る	田辺英蔵×大儀見薫 2月P 3	平野喜美夫 11月P 21	
		「ニッポンカップ」を運営して	
		小田切満寿雄	12月P 2
		大会本部から	村松哲太郎 12月P 3
		レース委員長を努めて	田中一美 12月P 4
		競技艇の世話をして	三井健一 12月P 4
		ボートの手配師をして	桑原祥三 12月P 5
		PR・PR・PR	中川興一 12月P 5
		エッセイ・読物	
		外洋ヨットの古典的航海術の終焉	藤井哲博 1月P 21
		MAY I SMOKE?	玄海支部 片倉静江 3月P 12

寄稿 メモリアル1987年 服部一良 3月P13
 山賊と海賊 玄海支部 片倉静江 4月P16
 船の儀礼の話 運輸省航海訓練所教授 橋本進 4月P18

第4回三崎マリンカップ(伊東レース)優勝記 杉田恭一 6月P8
 スプリングシリーズ優勝記〈ブーメラン〉オーナー 加藤強 6月P14

第1回エリカカップに優勝して 中嶋美津子 6月P16
 セールNo. 2022〈めるへん〉青あざ奮闘記 片山恭子 6月P20

メルボルン—大阪ダブルハンズ いよいよ本格的に マスコミに登場! 9月P22

鳥羽パールレースに優勝して 邨瀬愛彦 10月P2
 名洗港の皆さん有難う 松井利簡 12月P17

講習会関係

1987 ORC MACHINE MEASUREMENT

講習会報告 計測委員 大橋且典 2月P30
 安全講習会 玄海支部 片倉静江 7月P14
 「電話級」無線通信士・国家試験受験講習会のお知らせ 10月P26

領布物品

ポスタープレゼントのお知らせ(小笠原レース) 2月P37
 ジャパンカップ'86のビデオ 2月P43
 桜井隆彦写真集 7月P17
 安全委員会より領布物品のお知らせ 8月P32
 石原裕次郎メモリアルヨットレース・ミキモトジャパンカップのテレフォンカード 10月P27
 ミキモトジャパンカップのポロシャツ 10月P27
 ヨットカレンダーのお知らせ 11月P32, 12月P19

新登録艇の紹介

2月P44, 4月P24, 5月P31, 7月P19, 9月P27
 10月P28, 11月P35, 12月P19

本の紹介

戦端を開いたアメリカズカップ—TIME 誌—1月P23
 ヨット招福の冒険—世界一周クルージング—笹岡耕平 2月P24
 ビギナーのヨット教室テキスト 笹岡耕平 2月P25
 THE AMERICA'S CUP 1987 公式記録写真集 5月P28
 カムバック—デニス・コナーの長かった4年間 7月P13

桜井隆彦写真集 7月P17
 YAMAHA OSAKA CUP '87公式記録集 8月P18
 「船員日記(63年版)」 12月P19

売りたい/買いたい 情報コーナー

1月P24, 5月P31, 6月P48, 8月P32, 11月P35
 12月P20

お知らせ・その他

1987 謹賀新年 年頭のご挨拶 石原慎太郎 1月P2

'87年頭に当たって 秋田博正 1月P2
 年頭所感 大儀見薫 1月P3
 モンロー氏逝く 1月P8

メルボルン—大阪ダブルハンドヨットレース1987 応援ツアー 1月P14

年会費納入のお願い—事務局より— 1月P19
 大島へのお見舞 要図信一 1月P20

大島災害義援金の報告 1月P20
 大島町長からのご挨拶 2月P8

第5回小笠原レーススタート時間変更のお知らせ 帆走委員会 2月P37

ライフ・ア・ライン発売のお知らせ 2月P44
 年会費納入のお願い—本部事務局— 2月P44

第6回熱海ケッチミーティングのお知らせ 3月P18
 各支部会費 振込銀行先名 3月P23

“ニッポンカップ”が世界杯シリーズに 4月P14
 AMERICA'S CUPPER 桜井隆彦写真展 4月P14

内海支部の皆様 秋田博正 4月P23
 関東支部会員の皆様へ 清田博・安岡信一 5月P11

小型船舶操縦士の免許を受けておられる皆様へ 6月P30

無線従事者 電話級通信士8月期の受験申請について 6月P48

大島ランデブーのお知らせ 7月P14
 東京港架橋工事に伴う工事作業区域の変更のお知らせ 7月P18

ニッポンカップインターナショナルマッチレースの 説明会及び参加のおさそい 8月P29

神奈川県真鶴ウォーターフロント計画の基本構想調査 研究会委員募集 総務委員会 10月P2

戸塚宏講演会 10月P24
 ニッポンチャレンジニュース 11月P25

1987 NORC 大忘年会 PARTY 11月P33
 1987年11月 ORC 会議について 12月P18

広告 Yachting 1月P23, 2月P43, 3月P17, 4月P24
 5月P8, 6月P48, 7月P19, 8月P32
 9月P26, 10月P28, 11月P21, 12月P20

YAMAHA 1月P28, 3月P24, 5月P32, 7月P20
 9月P28, 11月P36

日本船舶通信株式会社 6月P9

OFFSHORE 第154号 昭和63年 1月15日発行
 毎月1回15日発行
 昭和52年 7月21日 第三種郵便物認可
 1部定価300円(郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
 東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
 電話・東京03(504)1911~3 〒105
 郵便振替番号2-21787

印刷 正進社印刷株式会社

サンクス、*Y-R*。

賞賛はいつもスキッパーにあつまる。運こそが勝利の条件かもしれない。

しかし栄光を手にしたクルーたちの「サックス」を、
もっとも心のこもった言葉をかけられるのはいつなのかもしれない。Y-Rシリーズ。
ヤマハがもてる技術と経験のすべてを注いで建造する、
世界のレーシングシーンで「勝つ」ためのY-Rシリーズ。
今日もどこかで「サックス」の音が。



YAMAHA-R 30 II



L.O.A. 8.99m
BEAM 3.22m
DRAFT 1.823m
DISPL 2.80ton
BALLAST 1.30ton
SAIL AREA 43.40m²
L.O.R.R. (about) 23.0feet

YAMAHA-R 34 II



L.O.A. 10.40m
BEAM 3.35m
DRAFT 1.90m
DISPL 3.70ton
BALLAST 1.80ton
SAIL AREA 50.03m²
L.O.R.R.(about) 25.0feet

YAMAHA-C 35cm



L.O.A. 10.60m
BEAM 3.35m
DRAFT 1.90m
DISPL. 3.95ton
BALLAST 1.80ton
SAIL AREA 45.73m²
SPEED (about) 25.45kts

YAMAHA-R FARR40



L.O.A. 12.19m
BEAM 3.99m
DRAFT 2.29m
DISPL 5.76ton
BALLAST 3.39ton
SAIL AREA 73.66m²
L.O.R.R. (about) 30.5feet



YAMAHA-R SERIES

●Y-Rシリーズは基本仕様をベースに、お客様のご要望により、仕様の変更、レーティング対策などをお打合わせのうえ建造いたします。なお、シリーズ船以外のご相談もお受けいたします。

FOR GOOD MARINE LIFE! 安全がマリンスポーツの基本です。

■天気予報を確認して、無理のない航行を。■法規やマナーを守りましょう。■立入禁止水域や船舶航行の頻繁な水域は避けましょう。■点検・整備を忘れずに。■乗船前に、免許と法定備品の確認を。■漁業者に迷惑をかけないようにしましょう。
●カタログご希望の方は、店名・雑誌名を明記のうえ、宣伝課まで。●ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県磐田市新貝2500

●ヤマハ製品についてのお問い合わせ
北海道ヤマハ株…… ☎011-612-1060
ヤマハ東北株…… ☎022-235-1031

ヤマハ東京株..... ☎03-444-9971
ヤマハ中部株..... ☎052-913-2121
ヤマハ関西株..... ☎06-535-1671

ヤマハ中国株…………… ☎082-285-4911
ヤマハ四国株…………… ☎0878-67-3800
ヤマハ九州株…………… ☎092-472-5261



NIPPON CHALLENGE
AMERICA'S CUP 1991

わたしたちはニッポンチャレンジ
アメリカ杯1991を応援しています